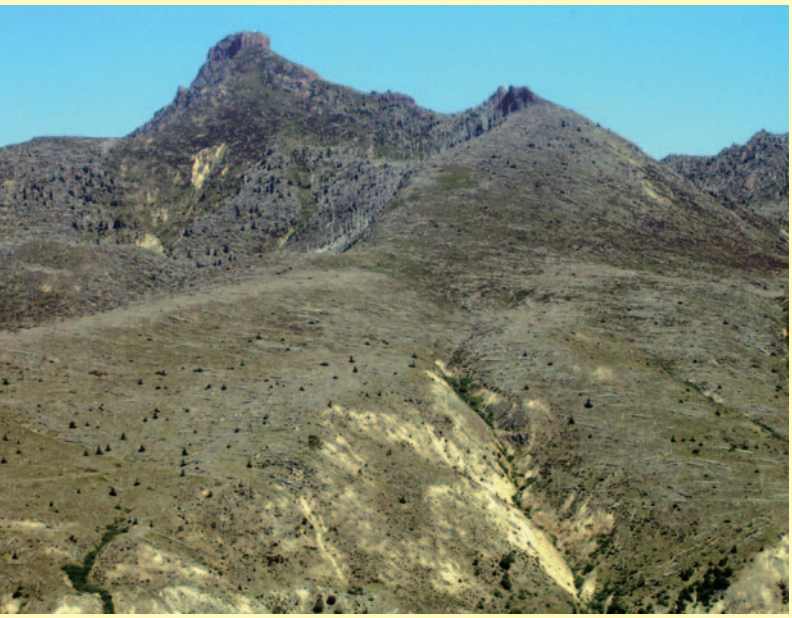
地質学雑誌　第114巻　第2号（通巻1349号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成20年2月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.11 No.2 February 2008

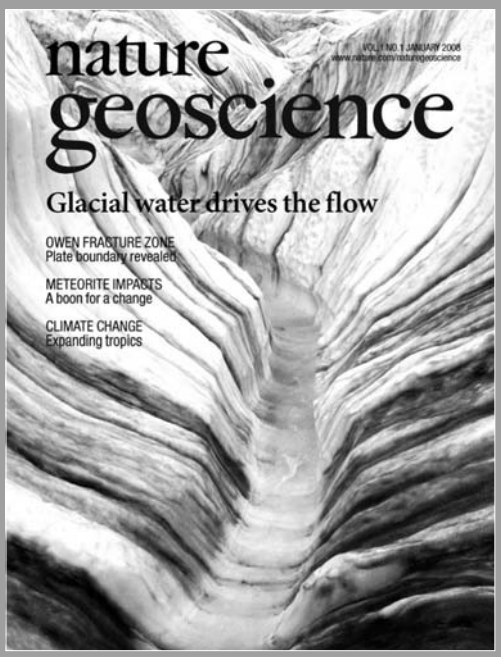


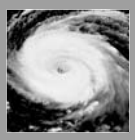
2008年1月 創刊

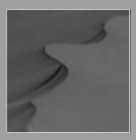
nature geoscience

創刊号 無料進呈！*

* 数に限りがございますので、下記のウェブサイトより、お早めにお申込み下さい。







定期購読 30%OFF

大好評により、キャンペーン延長！ 2008年3月20日まで

詳しくは下記のURLへ今すぐアクセス！

*Nature Geoscience*は家庭廃棄物の再生紙に植物原料のインクを用いて印刷されています。中のページは100%家庭廃棄物の再生紙から出来ており、表紙は75%家庭廃棄物の再生紙と良好に管理された保証済み森林から得られた未使用パルプ25%から出来ています。

EDITORIAL

The Earth in focus / 地球に焦点を当てて

COMMENTARY

From climate assessment to climate services
気候評価から気候業務へ *Martin Visbeck*

BOOKS & ARTS

The ends of the Earth *Ronald Amundson*

RESEARCH HIGHLIGHTS

Continental extension, venusian atmosphere, and more
大陸の拡大、金星大気等

NEWS & VIEWS

Palaeoceanography: The briny deep
古海洋：深く塩辛い海 *Ellen Martin*

Tectonics: Arabia's slow dance with India
テクトニクス：アラビア半島とインドのゆっくりとした舞 *Charles DeMets*

Palaeontology: Meteoritic spur to life?
古生物学：隕石が生命に拍車？ *Florentin Paris*

その他 5記事

PROGRESS ARTICLE

Widening of the tropical belt in a changing climate
気候変化に伴う熱帯域の拡大
熱帯域は過去数十年間にわたり拡大しており、数々の独立した証拠から推測されているように、乾燥した亜熱帯気候帯は世界的に極方向に移動している。
Dian J. Seidel, Qiang Fu, William J. Randel and Thomas J. Reichler

REVIEW ARTICLE

Core–mantle boundary heat flow
核マントル境界の熱の流れ *Thorne Lay, John Hernlund and Bruce A. Buffett*

LETTERS

Response of glacier basal motion to transient water storage
氷河底の動きの一時的な水の貯蔵庫に対する応答
氷河の速度は、氷河への水の供給が急激に増加することにより大きく影響を受けるが、増加した水の供給量が維持されるならば、氷河の排水系も調節されるので、速度は元のレベルに戻ることになる。
Timothy C. Bartholomaus, Robert S. Anderson and Suzanne P. Anderson

High rates of sea-level rise during the last interglacial period
最終間氷期の急速な海水面上昇 *E. J. Rohling et al.*

Persistent earthquake clusters and gaps from slip on irregular faults
不規則な断層上のすべりによる永続する地震発生域と空白域 *Tom Parsons*

Asteroid breakup linked to the Great Ordovician Biodiversification Event
オルドビス紀生物多様化大事件と関連した小惑星の分裂 *Birger Schmitz et al.*

その他 3記事

ARTICLES

Influence of brine formation on Arctic Ocean circulation over the past 15 million years
過去1500万年間の極域海洋循環に対する塩水形成の影響
Brian A. Haley, Martin Frank, Robert F. Spielhagen and Anton Eisenhauer

BACKSTORY

Drillship on ice / 氷の海の掘削船 *Kate Moran*

創刊号 無料公開中
Nature Gioscience 30%OFF 定期購読 & 創刊号無料進呈お申込はこちらから
www.naturejpn.com/land2
nature asia-pacific

日本地質学会*News*

Vol.11 No.2 February 2008

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル　６Ｆ
編集委員長　倉本真一
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

planetearth®
Earth Sciences for Society
2007 – 2009

Contents

新理事選挙・補充理事選挙・新評議員選出結果のお知らせ ……2

案内 ……4
日本堆積学会2008年弘前大会のご案内と講演募集/産業技術総合研究所地質調査総合センター第10回・11回シンポジウム

各賞・研究助成 ……5
2008年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者募集/日本発明協会平成20年度地方発明表彰募集

紹介 ……6
火山の大研究　鎌田浩毅　監修（鹿野和彦）

新版地質図・報告書類 ……6
「福井地域の地質」地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）鹿野和彦ほか著（服部　勇）/20万分の１地質図幅「山口及び見島」松浦浩久ほか著（西村祐二郎）

CALENDAR ……8

学協会・研究会報告 ……9
第４回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム付属九州縦断野外巡検参加報告（吉田　勝ほか）/第９回太平洋地域新第三系層序に関する国際会議報告（小笠原憲四郎）

地質学会はジオパーク、IYPEを積極的に推進しています ……11
ジオパーク推進活動の現状と今後/「地質の日」の地域でのイベント企画例

「地質学雑誌」新表紙デザイン募集 ……13

支部コーナー ……14
関東支部　第２回研究発表会「関東地方の地質」一般講演募集のお知らせ/箱根火山見学会のお知らせ/中部支部　2008年中部支部年会のおしらせ

地学教育のページ ……15
第２回国際地学オリンピック国内選抜実施・募集

院生コーナー ……16
研究室紹介　大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻地球物質進化学講座地球史学研究室（菅森義晃）

出版物在庫案内 ……18

表紙紹介 ……19
IODPジオハザードワークショップとセントヘレンズ山巡検（川村喜一郎ほか）

学会記事 ……20
2007年度第７回理事会議事録
2007年度第８回理事会議事録

会費口座振替依頼書

115年学術大会（秋田大会：9.20-9.22）
トピックセッション・シンポジウム募集中！

秋田大会より招待講演の取り扱いが変わります．詳しくは，ニュース誌１月号または学会HPをご参照下さい．

募集締切：３月17日（月）

日本地質学会行事委員会

専門部会への登録のお願い

新しく会員管理システムに部会情報を入力することができるようになり，専門部会の名簿も整備を開始いたしました．**これまで部会に参加されていた方も，改めて登録をしていただきますようお願いいたします．**詳しくは，ニュース誌11月号または学会HPをご参照下さい．

日本地質学会理事会

事務局営業カレンダー　■ お休みです

3月/March

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

4月/April

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

広告一部取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997

印刷・製本：日本印刷株式会社

新理事選挙・補充理事選挙・新評議員選出結果のお知らせ

2008年１月30日
日本地質学会　選挙管理委員会
委員長　加藤　　潔

選挙細則ならびに選挙内規にもとづき，新理事（08～09年度）・補充理事（08年度のみ）選挙ならびに新評議員（08～09年度）選出を実施いたしましたので，下記のとおりにご報告いたします．

記

１．理事選挙

当該年代議員全員の投票による選挙を実施いたしました．実施結果は下記のとおりです．

	新理事選挙	補充理事選挙
有権者数	190	184
投票数	104	97
有効	103	97
無効	1	0

２．新評議員の選出

新理事選出後，新理事を除いた全国区の代議員から，代議員選挙の得票数にもとづき，新評議員を20名選出いたしました．なお，評議員選出にあたっては，選挙細則にもとづき，次の事項を優先的に考慮し，選出いたしました．

＜日本地質学会選挙細則第４条（役員，代議員および評議員選挙）＞

７　評議員は毎年，定数の半数を選出する．評議員の選出は全国区代議員の選挙結果にもとづいて20名を決定する．決定にあたっては所属別定員充足数を考慮する．

８　評議員選挙の当選者の決定の際には，それぞれの支部所属者が最低１名含まれるように，選出順位の調整を行うこととする．

３．新・補充理事投票結果ならびに当選者，評議員選出者の名簿は次のとおりです．

＜新理事（08～09年度）選挙結果＞（定数７名）

	立候補者名	所属機関	得票数
当	井龍　康文	東北大学	81
当	向山　　栄	国際航業（株）	78
当	久田健一郎	筑波大学	76
当	石渡　　明	金沢大学	74
当	小嶋　　智	岐阜大学	73
当	倉本　真一	海洋研究開発機構	69
当	岩森　　光	東京大学	52
	土谷　信高	岩手大学	47
	楠田　　隆	千葉県環境研究センター	32

＜補充理事（08年度のみ）選挙結果＞（定数２名）

	立候補者名	所属機関名	得票数
当	坂口　有人	海洋研究開発機構	65
当	藤林　紀枝	新潟大学	57
	小荒井　衛	国土地理院	36

＜評議員選出者＞先の代議員選挙当選者もあわせて掲載致します．

代議員（全国区）：定員50（得票数）

○印は評議員選出者（20名）．なお，代議員選挙当選者のうち，評議員選出者はそのまま代議員と兼任になりますが、理事当選者は，代議員ではなくなります．

○１	木村　　学	東京大学	大学	(861)
○２	丸山　茂徳	東京工業大学	大学	(841)
○３	公文富士夫	信州大学	大学	(829)
○４	狩野　謙一	静岡大学	大学	(782)
○５	高橋　正樹	日本大学	大学	(778)
○６	伊藤　谷生	千葉大学	大学	(772)
○７	安藤　寿男	茨城大学	大学	(729)
○８	渡辺　真人	産業技術総合研究所	官公庁	(728)
○９	松岡　　篤	新潟大学	大学	(727)
○10	小山内康人	九州大学	大学	(716)
11	嶋本　利彦	広島大学	大学	(711)
12	松田　博貴	熊本大学	大学	(708)
13	佐藤比呂志	東京大学地震研究所	大学	(707)
○14	紺谷　吉弘	立命館高校	小中高	(705)

◯15	足立　勝治	アジア航測（株）	会社	(701)
◯16	佐々木和彦	応用地質（株）	会社	(698)
17	竹下　　徹	北海道大学	大学	(695)
18	新井田清信	北海道大学	大学	(694)
19	吉川　周作	大阪市立大学	大学	(694)
20	徳山　英一	東京大学海洋研究所	大学	(684)
◯21	滝田　良基	（株）ニュージェック	会社	(681)
22	大久保　進	石油資源開発（株）技術研究所	会社	(666)
23	土谷　信高	岩手大学	大学	(660)
24	中井　　均	都留文科大学	大学	(660)
◯25	岡　　孝雄	北海道立地質研究所	官公庁	(655)
◯26	吉川　敏之	産業技術総合研究所	官公庁	(651)
27	大藤　　茂	富山大学	大学	(648)
28	西　　弘嗣	北海道大学	大学	(646)
29	佐藤　尚弘	明治コンサルタント（株）	会社	(645)
30	重松　紀生	産業技術総合研究所	官公庁	(642)
◯31	芝川　明義	大阪府立花園高校	小中高	(641)
32	長谷部徳子	金沢大学	大学	(635)
33	古川　竜太	産業技術総合研究所	官公庁	(629)
◯34	村山　雅史	高知大学	大学	(625)
◯35	磯野　　清	神戸市立飛松中学校	小中高	(624)
36	山元　孝広	原子力安全基盤機構	官公庁	(622)
37	岡田　　誠	茨城大学	大学	(621)
38	片山　　肇	産業技術総合研究所	官公庁	(616)
39	依田　直樹	パシフィックコンサルタンツ（株）	会社	(606)
◯40	松原　典孝	茨城大学	大学院	(588)
41	林　　愛明	静岡大学	大学	(587)
42	三次　徳二	大分大学	大学	(582)
43	大橋　聖和	新潟大学	大学	(573)
44	山口　耕生	海洋研究開発機構	官公庁	(549)
45	岩井　雅夫	高知大学	大学	(502)

代議員（地方区）※定員を越えなかったためすべての地方区は無投票当選

北海道：定員 3

1　松田　義章　札幌稲北高等学校
2　和田　恵治　北海道教育大学旭川
3　川村　信人　北海道大学

東北：定員 4

1　菖蒲　幸男　応用地質（株）
2　島本　昌憲　東北大学
3　加々島慎一　山形大学
4　鈴木　紀毅　東北大学

関東：定員19

1　鈴木　宇耕　海洋研究開発機構
2　手塚　裕樹　アジア航測（株）
3　楠田　　隆　千葉県環境研究センター
4　稲場土誌典　帝国石油（株）
5　木村　克己　産業技術総合研究所
6　京相　健二　茨城大学
7　中澤　　努　産業技術総合研究所
8　杉田　律子　科学警察研究所
9　成毛　志乃　茨城大学
10　吉岡　　正　応用地質（株）
11　金丸　龍夫　日本大学
12　亀尾　浩司　千葉大学
13　小松原　琢　産業技術総合研究所
14　高橋　路輝　（株）サンコア
15　中山　俊雄　東京都土木技術センター
16　平田　大二　生命の星地球博物館
17　藤縄　明彦　茨城大学

中部：定員 9

1　山本　博文　福井大学
2　森田　康裕　応用地質（株）
3　長谷川　卓　金沢大学
4　永田　秀尚　（有）風水土
5　WALLIS Simon　名古屋大学
6　竹之内　耕　糸魚川市教育委員会
7　延原　尊美　静岡大学
8　石田　　桂　信州大学
9　大谷　具幸　岐阜大学

近畿：定員 6

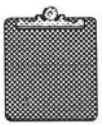
1　山田　泰広　京都大学
2　奥平　敬元　大阪市立大学
3　中条　武司　大阪市立自然史博物館
4　小林　文夫　兵庫県立人と自然の博物館
5　宮田　隆夫　神戸大学
6　竹村　静夫　兵庫教育大学

四国：定員 2

1　奈良　正和　愛媛大学
2　佐野　　栄　愛媛大学

西日本：定員 7

1　太田　泰弘　北九州市立自然史・歴史博物館
2　池上　直樹　御船町恐竜博物館
3　亀井　淳志　島根大学
4　川野　良信　佐賀大学
5　岡本　真琴　九州国際大学
6　豊原富士夫　熊本大学
7　仲谷　英夫　鹿児島大学



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

日本堆積学会2008年弘前大会のご案内と講演募集

2008年４月25日（金）～29日（火・祝）
25日（金）：ショートコース
26日（土）：個人講演，総会議事，懇親会
27日（日）：個人講演，最優秀口頭・ポスター発表の表彰，堆積学トーク・トーク
28・29日（月・火）：巡検
会場：弘前大学創立50周年記念館
例会参加費（講演要旨集込み）：
一般会員　3,000円，
学生・院生会員　2,000円
非会員一般　4,000円，
非会員学生・院生　2,500円
個人講演募集（口頭講演とポスター）：
講演申込締切：**2008年３月14日（金）**
講演要旨締切：**2008年３月21日（金）**
17：00

ショートコース：「石油探鉱データを使用した地下地質堆積環境イメージング」
４月25日（金）13：00～18：00，弘前大学教育学部
講師：中西健史（国際石油開発）
効率のよい石油探鉱をすすめる上で，地下地質の堆積環境を把握することは重要です．それは石油を蓄えている貯留岩の性状とその堆積環境とに密接な関係があるためです．本ショートコースは参加者に石油探鉱で取得される坑井データ及び地震探鉱データを用いた地下の堆積環境のイメージングエクササイズを通じて，堆積学の石油探鉱への適用，地下地質の不確実性，地下地質解釈の実践的アプローチを体感してもらうものです．
参加費：500円
定員：10名（学生枠７名・一般枠３名）
（先着順，会員優先）

巡検：下北半島の更新統田名部層（バリアー島堆積物や氷河性海水準変動に伴う開析谷とその埋積物など）
集合：４月28日（月）朝，弘前大学（予定）
解散：５月29日（火）午後，青森空港・弘前駅・弘前大学（予定）
案内者：鎌田耕太郎・小岩直人（弘前大学）ほか
青森県むつ市周辺の更新統田名部層（バリアー島堆積物や氷河性海水準変動に伴う開析谷とその埋積物など）を見学します．
参加費：15,000円前後（予定）
定　員：30名（先着順，会員優先）

団体展示出展：
個人講演開催期間中，年会会場にて企業・博物館・大学・研究グループによる展示出展が可能です（有料）．団体専用の展示ブースをご用意いたします．堆積学に関する研究や製品の紹介，広報宣伝，人材交流などにご利用ください．

懇親会：
４月26日（土）18：00～20：00
弘前大学生協食堂「スコーラム」
懇親会費：事前登録一般4,500円，事前登録学生1,500円，当日申し込み一般5,500円，当日申し込み学生2,000円

堆積学トーク・トーク：
４月27日（日）17：00～19：00
弘前大学50年記念館会議室
２日目の個人講演のあと，講演賞の顕彰に引き続いて開催します．堆積学トーク・トークでは，通常の講演よりもくだけた自由な雰囲気の中で研究発表や討論を楽しめます．

各種申し込み先など詳しくは，日本堆積学会ホームページ（URL: http://sediment.jp/）をご覧下さい．

産業技術総合研究所地質調査総合センター第10回シンポジウム

地質リスクとリスクマネージメントー地質事象の認識における不確実性とその対応ー

日時：**2008年３月11日（火）13：00-17：15**
場所：秋葉原ダイビル５F会議室５B
主催：産総研地質調査総合センター・産学官連携部門，（社）全国地質調査業協会連合会，地質地盤情報協議会
共催：（独）土木研究所
定員：130名　入場無料
参加お申込み：webサイトからお申し込みください．
http://www.gsj.jp/Event/080311sympo/
お問い合わせ：地質調査総合センター
gsjsympo10@m.aist.go.jp

プログラム
13：00-13：05
開会の挨拶：加藤碩一（産総研　理事）
13：05-13：15
シンポジウム趣旨説明：栗本史雄（産総研地質調査情報センター長）
13：15-13：45
【特別講演】Supporting Societal Needs for Geoscience Information: The U.S. National Geologic Map Database（米国地質図データベース：地球科学情報に関する社会的要請に応えるために）：David R. Soller（米国地質調査所）
13：45-14：00
産総研における地質地盤情報整備に向けた取り組みと地質リスク低減への貢献：中澤努（産総研　地質調査情報センター地質調査企画室）
14：00-14：25
石油探鉱・開発における地質リスク評価：高山邦明（国際石油開発株式会社）
14：25-14：45
土木地質におけるリスクとその管理：脇坂安彦（土木研究所）
14：45-15：00　休憩
15：00-15：20
国内公共事業における地質リスクの発現とその対応の分析：佐橋義仁（（株）建設技術研究所）
15：20-15：40
国外における地質リスクの認識とリスクマネージメントの動向―全地連「地質リスク」海外調査の趣旨と背景―：小笠原正継（産総研 地質情報研究部門）
15：40-16：00
米国カリフォルニア州の建設事業における地質リスクマネージメント―全地連「地質リスク」海外調査の成果―：長瀬雅美（応用地質株式会社）
16：00-16：20
日本の公共工事リスクマネージメントの歴史と将来の方向性：渡邊法美（高知工科大学）
16：20-16：40
設計コードにおける地盤パラメータ特性値の推定と地盤調査：本城勇介（岐阜大学）
16：40-17：10　総合討論
17：10-17：15
閉会挨拶：佃　栄吉（産総研 地質調査総合センター代表）

産業技術総合研究所地質調査総合センター第11回シンポジウム

地下水のさらなる理解に向けてー産総研のチャレンジー

日時：**2008年３月19日（水）13：00-17：30**
（12：30開場，ポスター閲覧可能）
場所：秋葉原ダイビル５F会議室５B
主催：産総研地質調査総合センター
定員：100名　入場無料
参加お申込み：webサイトからお申し込みください．
http://www.gsj.jp/Event/080319sympo/
お問い合わせ：地質調査総合センター
gsjsympo11@m.aist.go.jp

プログラム
13：00-13：05
開会挨拶～産総研の地下水研究のスコープ～：加藤碩一（理事）
13：05-13：15
本シンポジウムの趣旨と構成：安原正也（地質情報研究部門）
13：15-13：50
【基調講演】わが国における地下水研究の流れと今後への期待：黒田和男（前島根大学理学部教授・元地質調査所）

【産総研における地下水研究の成果と展望】
13：50-14：15
都市域の地下水システムの研究：安原正也ほか（地質情報研究部門）
14：15-14：40
広域地下水流動評価～深層や沿岸の地下水を考慮して～：丸井敦尚（地圏資源環境研究部門）
14：40-15：05
深部流体のフラックスと成因～有馬型熱水について～：風早康平ほか（地質情報研究部門）
15：05-15：50　休憩＆ポスター発表
15：50-16：15
地下水で地震を予測する：小泉尚嗣（地質情報研究部門）
16：15-16：40
地下水の超長期年代測定～ヘリウム同位体手法を中心に～：森川徳敏ほか（地質情報研究部門）
16：40-17：05
水理特性と水文状態量を同時に把握する原位置調査：伊藤一誠（地圏資源環境研究部門）
17：05-17：25
総合討論（司会　鈴木裕一：立正大学地球環境科学部教授）
17：25-17：30
閉会挨拶：佃　栄吉（地質調査総合センター代表）

【ポスター】
P1　地球化学的手法による都市域の浅層地下水涵養源の推定：稲村明彦（地質情報研究部門）ほか
P2　関東平野における断層系と広域地下水流動：林　武司（地質情報研究部門・客員研究員）ほか
P3　東京湾周辺地域における地下水の流動ならびに環境の変化：宮越昭暢（地圏資源環境研究部門）
P4　摩周火山と周辺の地下水システム～摩周湖からの漏水の及ぼす影響～：安原正也（地質情報研究部門）ほか
P5　山形盆地の地下水水質：町田　功（地圏資源環境研究部門）ほか
P6　孔井地質および降水，表流水，地下水の溶質組成と同位体組成に基づいて推定された金丸地区の水文地質構造：関　陽児（地圏資源環境研究部門）ほか
P7　日本列島の海底地下水湧出量分布：伊藤成輝（地圏資源環境研究部門）
P8　広域地下水流動における帯水層群別特性評価：吉澤拓也（地圏資源環境研究部門）
P9　地下水流動と地下温度分布：内田洋平（地圏資源環境研究部門）
P10　浅層地中熱分布とその利用のための研究～青森県の例～：安川香澄（地圏資源環境研究部門）ほか
P11　日本列島の温泉の特徴，分布ならびに成因：高橋正明（地質情報研究部門）ほか
P12　化学・同位体組成から見た阿武隈花崗岩中の亀裂水の特徴：高橋　浩（地質情報研究部門）ほか
P13　岩手山周辺地域における地下水流動系へのマグマ性揮発性物質フラックス：大和田道子（地質情報研究部門）ほか
P14　雲仙火山周辺の地下水の地球化学・水文学的研究：地下水を介したマグマ性揮発性物質の散逸について：森川徳敏（地質情報研究部門）ほか
P15　想定東海地震の前兆すべりに対する産総研地下水観測網の検知能力：松本則夫（地質情報研究部門）
P16　断層の修復過程を透水性の時間変化によってモニターする：北川有一（地質情報研究部門）ほか
P17　地下水から紐解く地下生物圏の実態：鈴木庸平（地圏資源環境研究部門）
P18　無次元解析に基づく各種室内拡散試験法の相互評価：竹田幹郎（地圏資源環境研究部門）ほか

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

2008年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者募集

申請書類は，地球化学研究協会のホームページからダウンロードして下さい．
1．三宅賞
対　　象：地球化学に顕著な業績を修めた研究者
表彰内容：賞状，副賞として賞牌および賞金30万円，毎年１件（１名）
2．奨励賞
対　　象：推薦締切日に35才以下で，地球化学の進歩に優れた業績を挙げ，将来の発展が期待される研究者
表彰内容：賞状および賞金10万円，毎年１件（１名）
3．応募方法：
地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に，略歴・推薦理由・研究業績などを記入し，主な論文10編程度（三宅賞），２編程度（奨励賞）を添えて，下記のあて先へ送付して下さい．
応募書類等は，三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます．
4．締切日：**2008年８月31日**
5．地球化学研究協会ホームページ：
http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/
6．応募先：
〒100-8212　東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ
（公益信託）地球化学研究基金　江川康治
7．問合せ：
地球化学研究協会事務担当まで，電子メールでお願いします．
E-mail: t-sagi@m3.gyao.ne.jp

日本発明協会平成20年度地方発明表彰募集

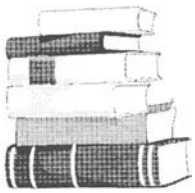
趣旨
本発明表彰は，各地方における発明の奨励・育成を図り，科学技術の向上と地域産業の振興に寄与することを目的として大正10年に創設されたものです．全国を北海道，東北，関東，中部，近畿，中国，四国及び九州の8地方に分け，各地方において優秀な発明・考案・意匠を完成された方々，発明等の実施化に尽力された方々，発明等の指導・奨励・育成に貢献された方々の功績を称え表彰するものです．

表彰
技術的に優秀で，かつ実施効果が高い特許・実用新案および意匠の発明者等を対象に次の各賞を贈呈します．
◆特別賞（文部科学大臣発明奨励賞，特許庁長官奨励賞，中小企業庁長官奨励賞，経済産業局長賞，発明協会会長奨励賞，日本弁理士会会長奨励賞）
◆知事賞，支部長賞，発明奨励賞，実施功績賞　ほか

応募方法
所定の応募書類にご記入の上発明協会各都道府県市部宛にご提出下さい．応募書類は発明協会HP＜http://www.jiii.or.jp/＞でダウンロード可能です．

締切
平成20年４月１日（火）

お問合せ先
〒105-0001　東京都港区虎ノ門2-9-14
社団法人発明協会
発明奨励グループ発明奨励チーム
TEL：03-3502-5431（ダイヤルイン）
FAX：03-3502-3485
E-mail：shourei@jiii.or.jp
http://www.jiii.or.jp/



紹　介

火山の大研究

鎌田浩毅　監修
造事務所編集・構成

PHP研究所，2007年９月３日出版，
Ａ４判変型上製，240頁
定価2940円（本体価格2800円），
ISBN978-4-569-68730-8

火山の研究ではなく火山の大研究というタイトルである．おまけに「地球に秘められた大きなパワー」「ふん火のヒミツがよくわかる」と，にぎやかなサブタイトルが二つもついている．火山は地球に秘められた大きなパワーを放出する場所であり，災害をもたらす．そんな恐ろしい火山も災害だけでなく，温泉やおいしい野菜を私たちに恵んでくれる．というわけである．噴火のヒミツを解き明かしながら火山の魅力を豊富な写真とイラストで楽しく解説した本である．

子供向けにしてはやや高価であるが，その分だけ監修者の意図を汲んだカラーの写真やイラストが本書の魅力を倍増させている．何よりも編集・構成がすばらしい．さすがにプロの仕事である．

本書は３つのパートからなり，それぞれに魅力的な項目が並んでいる．

＜パート１＞「火山の正体としくみ」
　火山はこうしてできる！
　火山のなかにはマグマがつまっている！
　えっ！　海の底にも火山があるの!?
　あぶない火砕流と火山ガス
＜パート２＞「火山からのおくりもの」
　おいしい水
　美しい湖
　たのしいレジャースポット
　貴重な石材や金
＜パート３＞「ふん火と災害」
　ふん火は予測できる
　防災のあれこれ
　有珠山のふん火をよく見てみよう
　富士山はふん火するの？

このほかに「さあ！やってみよう」と「もっと知りたい！」の二つのコーナーがある．

「さあ！やってみよう」では「サイダーでふん火の実験」「砂場で地かく変動を見てみよう」「水でっぽうで溶岩ふん泉を見てみよう」と多彩な実験が繰り広げられる．「もっと知りたい！」は火山学者の仕事を紹介するコーナーである

きわめつけは，「火山博士になりたキミへ！」という表紙カバーのクイズである．本書を読めば分かるというのだから，興味をもったら読まないわけにはいかない．

このように本書は子供向けの体裁をとってはいるが，火山の紹介から噴火災害まで下手な専門書よりもずっと分かり易いし．専門外の大人が読んでもおもしろい．専門家から見ると問題がないわけではないが，様々な事象を思い切って単純化して説明するとともに，ちょっと考えさせてくれる実験なども盛り込んでいるので，近頃本を読まないと言われている地球科学系の学生のマンガ的入門書としても手頃なのではないかと思う．

（鹿野和彦）

新版地質図・報告書類

「福井地域の地質」地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）

鹿野和彦・山本博文
中川登美雄　著

産業技術総合研究所地質調査総合センター，2007年６月発行，Ａ４判，68p.
定価3,885円（税込）

「福井地域の地質」は地質調査総合センターにより福井県下で新第三系が広く分布する福井図幅地域に関して作成された．この地域の海岸には地質の好露出が多くあり，そのため，詳細な研究がなされ，さらには学生に対する野外指導の場としても活用されている．紹介者（服部）も地元の地質研究者として福井図幅地域の地質に親近感をもっており，その立場から紹介し，書評を行う．

本研究報告は７章構成であり，第１章（地形），第４章（第四紀），および第６章（地震活動）を山本が，第３章（新第三系）を鹿野と中川が，第２章（地質概説），第５章（地質構造），第７章（応用地質）を鹿野，山本，中川が執筆している．地域の面積の３分の２を新第三系が占め，報告書や地質図でも新第三系の記載に力点が置かれている．

新第三系は地域の中央を南北に延びる丹生山地に分布している．今まで，この新第三系は層序学的にいくつかの累層，部層に分類され，その分布が検討されてきた．この地域の新第三系は火山岩やその派生堆積物を多く含み，それらの間の同時異相関係や局地的堆積作用が顕著であり，岩相と年代の両方を満足させる対比が困難であった．本調査報告では，丹生山地の新第三系を主に岩相で大分類してある．それらは下位から糸生層，国見層，荒谷層の火山岩・堆積岩類と，これらを被覆したり，貫入したりする市ノ瀬流紋岩と国見岳火山岩である．この分類は，従来多くあった地層名を整理・統合しており，この地域の地質に直接携わっていない読者にとってはたいへん分かりやすくなった．

前期中新世中頃に，沈降傾向にあった基盤岩上に発生した火山体あるいはそれから流れてきた玄武岩・安山岩の溶岩の堆積があった．これらの火山岩体の間の低地部の湿地・池などにシルト岩や泥岩が堆積した（糸生層）．地域全体の沈降が継続し，やがて浅海環境となり，浅海性の堆積岩が堆積する．幾枚かの安山岩溶岩やデイサイト火砕岩を挟むが，それらは全体としては側方への連続性のよい地層である（国見層）．陸域環境を示す岩相（糸生層）から浅海環境を示す岩相（国見層）の遷移層準が糸生層と国見層との境界として再定義された．地域全体の沈降は継続し，地層の堆積環境は陸棚の様相を示すようになり，この時期に堆積した地層が荒谷層である．荒谷層は泥岩やシルト岩が顕著であるが安山岩溶岩流を挟む．この時期までが沈降期であったが，反転し，隆起期となり，その初期に市ノ瀬流紋岩およびその類縁岩体が浅海から陸上に噴出・堆積し，引き続いて，陸上の火山活動の産物としての国見岳火山岩およびその類縁岩体が噴出・堆積した．新たに測定されたフィッション・トラック年代などを参考にすると，沈降期はおおよそ20Maから16Maであり，隆起が始まったのは15.5Maである．

従来，この地域の地層は不整合関係に基づいて，分類されてきたが，今回の調査では，それらは，チャネリングの結果であったり，地層の欠如であったりし，地層区分としては有効ではないことを示し，岩相・層相の違いにより示される堆積環境の違いに重きを置いて分類されている．上述したように，連続した環境変化を区分するには適切な方法であると思われる．この方法による分類は，同じ名称の地層の同時性に疑いが発生するが，丹生山地のような狭い範囲においては，さらに従前からの鍵層・化石による対比と数値年代を評価することにより，同時性も保証されるで

あろう．

第四系については，基本的に従来の資料を整理し直し，記載されているが，海成段丘については近年段丘堆積物中から見つかったテフラの同定に成功し，その結果に基づいて，高位段丘のいくつかが中位段丘に年代変更されている．

丹生山地は，海岸を除いて露出も悪く，また地層の傾斜も緩く，調査が困難な地域である．調査結果を地質図に表現することが容易ではない地域であるが，地質図を読む限り，丹念な調査が行われていることが推察され，調査者に敬意を表したい．化石産地や新規にフィッション・トラック年代を測定した試料採集地点のデータも巻末に提示されている．このように，本研究報告と地質図は地域研究の成果として高く評価されるものである．

説明書にあるように，丹生山地全体が大きな地背斜をなしている．山地内の新第三系は，全体として傾斜が緩く地質構造としては強調すべき点もないが，それでもいくつかの向斜・背斜が描かれ，海岸地域には急斜帯が，山地内には北東－南西方向の断層などが数多く存在する．それらの性状や成因についても触れて欲しかった．また，丹生山地の地質のかなりの部分を占める火成岩類についての記載岩石学や化学組成の記載が十分に行われているとはいえず，丹生山地の地質過程について岩相・層相と層序以外の側面からの議論ができない点が惜しまれる．糸生層から荒谷層までの地層に年代の異なる安山岩が岩脈として貫入したりシルとして挿入している．これらの安山岩についての地質学的解釈が行われておらず，この点も残念である．丹生山地の新第三系には盆地の発生，沈降，隆起の一連の記録が残されているので，この地域の発達史をもう少し踏み込んで考察してもよかったと思われる．特に日本海拡大との関連については多くの読者の関心を引いたであろう．

本研究報告は優れた作品であることは言うまでもないが，いくつかの難点も見出される．まず，本書には新第三系の地質柱状図や露頭写真は掲載されているが，ルートマップや露頭のスケッチが全く見あたらない．これらが載せられていると，野外での追証や観察には有効になったであろう．第二に，本書で提示されている模式層序断面図などの凡例と地質図の凡例とが完全には一致せず，地質図と比較しながら理解するのに手間が掛かる．地質図での凡例と同じにするか，あるいは地質図で用いられている記号を断面図の凡例などに付け加えておくとよかった．なお，本文中の記号と地質図での記号とが一致しなかったり，異なる記号を用いて説明したりしている点もあり，注意が必要である．

本書の地質図を見ているだけで，中新世のこの地域の地質発達史が生き生きと読み取ることができ，地質図を見ているだけで楽しめる．この点は従来の地質図より格段に優れた作品となっている．上述のようにいくつかの難点を指摘したが，それらの難点を補って余りある成果であり，福井地域の地質の研究や教育のみならず日本海拡大の地質学的記録に関心をいだく研究者にも多大な貢献をするであろう．

（服部　勇）

20万分の１地質図幅「山口及び見島」

松浦浩久・尾崎正紀・脇田浩二
牧本　博・水野清秀・亀高正男
須藤定久・森尻理恵・駒澤正夫
著

（産業技術総合研究所地質調査総合センター，2007年９月発行，定価2,730円（税込），裏面に解説付）

昨秋，20万分の１地質図幅「山口及び見島」が刊行された．本図幅は，国土地理院発行の20万分の１地勢図「山口」と「見島」を合併したもので，山口県の主要部と島根県の西端部を含む．

本地域は明治以来多くの地質研究者によって調査・研究がなされ，古生代シルル紀－デボン紀以降現在までの地層や岩石がほぼ絶え間なくそろっており，西南日本内帯の縮図ともみなされ，模式地となっている所が多い．そのためか，地質調査所では古くから７万５千分の１地質図幅「山口，1922」と「小串，1922」に始まり，「徳山，1926」，「須佐，1930」及び「津和野，1952」を相次いで刊行してきた．その後，５万分の１地質図幅への改訂や刊行は途切れていたが，2005年に産総研地質調査総合センターの５万分の１地質図幅「仙崎」（説明書は2006年）が出版されている．これに対して，山口・島根両県では県地質図をしばしば改訂しており，新編山口県地質図（1995）及び新編島根県地質図（1997）がこれまで広く利用されてきた．本図幅は，主にこれらの多くの文献に基づいて編纂され，不明・要調整部分を２年間にわたって野外調査で補足され，鉱床分布と重力図が付記されており，相当に進化した利用価値の高い図幅になっている．特に，県地質図の欠点である県境部の地質が読みやすくなっている．

本図幅を一見すると，地質凡例が100以上に及び，配色のよい美しい図幅に仕上げられている．しかし，幾つかの類似した色が使われていて判別しにくいものもあるので，模様を付けるなどの工夫があると，もっと読みやすくなるのではと感じた．また，活断層が最新のデータに基づいて実在活断層，推定活断層及び伏在活断層に区分され，それぞれが赤の実線，鎖線そして点線で明示されており，利用者には有益である．裏面には，解説文が５頁にわたって簡潔にまとめられ，文献も２頁にわたり146編が引用されており，文献集としても有用である．しかし，９名による分担執筆のためか，各項目の記述や文献引用の仕方などにかなりの疎密があるように感じられる（後述）．地質図幅の本質とも言える地質区分の仕方とその境界に関しては，じっくり見ないとわからないが，いろいろな点で改善が図られ，より正確に，またより統一的に表現されていると感じている．本図幅で採用された大きな改善点の幾つかを以下に列挙し，評者の私見を付記する．今後の参考になれば，幸いである．

まず，本図幅の約25%を占める後期白亜紀火山岩類が，周南層群並びに阿武層群及び匹見層群とに大きく２区分され，従来の累層区分ではなく，岩相区分で塗色されており，編者らの努力がうかがえる．また，同じく約25%を占める後期白亜紀深成岩類は，岩相と放射年代に基づいて花崗岩類ⅠからⅣに区分されている．花崗岩類ⅠとⅡが領家古期と新期の花崗岩類に相当することは読み取れるが，花崗岩類Ⅲが防府花崗岩，真砂花崗岩などのローカル名が使われ，従来親しまれてきた領家花崗岩類に対する広島花崗岩類と言う概念や名称が消えているのは，理解しにくく，また残念でもある．さらに，花崗岩類Ⅲに対する火山岩類が周南層群並びに阿武層群及び匹見層群の２区分にまとめられたので，この花崗岩類を２つに区分し，火山－深成活動の対応が読み取れるように表現した方がよいのではと考える．

次に，古生代と中生代の堆積岩類を正常堆積岩類（整然層）と付加コンプレックスとに区分する工夫がなされている．正常堆積岩類では，各層群が従来の区分に従って各部層に区分され，さらに岩相区分もなされている．ペルム紀付加コンプレックスでは，従来の区分による層群や部層が一括されて秋吉帯にまとめられ，岩相区分だけの表示になっている．これに対してジュラ紀付加コンプレックスでは，美濃－丹波帯とされ岩相区分で表示されてはいるが，玖珂層群が美川層群と玖珂層群とに再び区分され，塗色されているのは不自然である．高見（1993）やTakami and Itaya（1996）の提唱－玖珂層群に一括し，ユニットⅠからⅢに区分－の方が妥当であろう．

第３として，いわゆる“三郡変成岩類”が三郡－蓮華変成岩類と周防変成岩類とに２区分されているのは読める．しかし，解説文にはその説明がなく，また文献の引用もないため，誰の区分や命名かがわからない．評者が提案している２区分法（Nishimura, 1998）であれば，蓮華変成岩類と周防変成岩類である．なお，三郡－蓮華変成岩類という名称はそれ以前の３区分法（柴田・西村，1989；Nishimura, 1990）時代の名残である．

第４として，地質分布は極めて小さいが，地質学的意味が非常に大きい事象について，誤りないし誤解がなされているので，指摘しておきたい．それは，山口市湯田温泉北西の赤妻から泉山にかけて周防変成岩類の見かけ上位にクリッペ状に重なるペルム紀付加コンプレックス（宮野層）の３つの小分布域が，

本図幅では周防変成岩類に一括され，苦鉄質片岩で塗色されている．しかし，これらは小澤（1929）と杉山（1939）の指摘以降，古くは吉野（1954）やKawano（1961）の地質図に，最近では武田・今岡（1999）の地質図だけでなく新編山口県地質図（1995）にも宮野層として明示されている．また，この逆のケースもある．それは，山口県庁北北東の宮野湖周辺に分布するペルム紀付加コンプレックス（宮野層）の見かけ下位にフェンスター状に現れている周防変成岩類（泥質片岩）の２つの小分布域が，本図幅ではペルム紀付加コンプレックスに一括されて，削除されている．このような周防変成岩類とペルム紀付加コンプレックスとの接触関係は，湯田－宮野地域だけでなく岩国市北部の錦町にまで追跡され，古くから北山スラスト（Kojima, 1953；西村ほか，1989）と呼ばれており，両者の関係を考える上で重要な事象であるので，地質図上にうまく表現すべきである．

最後に，いろいろ書き連ねてきたが，本図幅はこの地域の今後の地質学的研究や土木・建築業の基礎資料として役立つとともに，社会的及び教育的ニーズにも応えうる内容になっているので，多くの方々に活用されることを祈念する．また，20万分の１地質図幅は残り十数図幅で国土全域をカバーするので，それらの刊行が期待される．

（西村祐二郎）

CALENDAR

2008.2～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2008年

2月　February

○日本古生物学会第157回例会
２月１日（金）～２月３日（日）
場所：宇都宮大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj5/index.html

★第154回西日本支部例会および2007年度支部総会
２月16日（土）～17日（日）
17日（日）見学会「御所浦白亜紀資料館と御所浦島の地質」
会場：熊本大学理学部２号館
申込締切：２月１日（金）必着
http://www.geosociety.jp

3月　March

○第42回日本水環境学会年会
３月19日（水）～21日（金）
会場：名古屋大学
http://www.jswe.or.jp/

○日本地理学会2008年春季学術大会
３月29日（土）～31日（月）
会場：獨協大学（埼玉県草加市）
http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/

4月　April

○日本堆積学会2008年弘前大会
４月25日（金）～29日（火・祝）
会場：弘前大学創立50周年記念館
http://sediment.jp/

5月　May

○2008年度北海道支部総会・個人講演会・地質学講演会
５月10日（土）地質の日
場所：北海道大学理学部大講堂（予定）
地質学講演会「知られざるシレトコ－知床半島の地質－」
http://www.geosociety.jp/outline/content0023.html

★関東支部箱根火山見学会
５月17日（土）～18日（日）（１泊２日）
応募受付期間
３月18日（火）～４月18日（金）
http://kanto.geosociety.jp/

○日本地下水学会2008年春季講演会
５月24日（土）
会場：東京農工大学農学部（府中キャンパス）
http://www.groundwater.jp/jagh/

★日本地質学会第115年代議員総会
５月25日（日）予定
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.geosociety.jp/outline/content0017.html

○日本地球惑星科学連合2008年大会
５月25日（日）～30日（金）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://ww.jpgu.org

6月　June

★関東支部　第２回研究発表会「関東地方の地質」
６月８日（日）10：00～17：00
会場：早稲田大学国際会議場第１会議室
http://kanto.geosociety.jp/

○第18回日本情報地質学会総会・講演会
６月21日（木）～22日（金）
（23日に見学会：石見銀山）
場所：島根県民会館（大会議室）
http://www.jsgi.org/

★中部支部年会
６月28日（土）～29日（日）
28日：総会・シンポジウム「歪み集中帯とフォッサマグナ」
29日：地質見学（未定）
会場：新潟大学五十嵐キャンパス
http://www.geosociety.jp

7月　July

○日本古生物学会2008年年会・総会
７月４日（金）～６日（日）
場所：東北大学（宮城県仙台市）
講演申込・講演予稿締切：４月25日（金）必着
http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj5/index.html

8月　August

○Internatinal Geological Congress OSLO 2008（The 33rd IGC）
８月６日（水）～14日（木）
http://www.33igc.org/

○第２回国際地学オリンピック
８月31日（日）～９月７日（月）
場所：フィリピン共和国
http://www.jpgu.org/ieso/

○6th International Conference on Asian Marine Geology
－Asian Waters explored by advanced research of 21st Century－
８月29日（金）～９月１日（月）
場所：高知市
http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/ICAMG6/

9月　September

○第12回岩の力学国内シンポジウム
９月２日（火）～４日（木）
会場：山口大学工学部（山口県宇部市）
講演原稿提出期限：５月16日（金）
http://www.mmij-kyushu.com/JROCK2008/

○土木学会第63回年次学術講演会
９月10日（水）～12日（金）
場所：東北大学川内北キャンパス
http://www.jsce.or.jp/committee/zenkoku/h20/index.html

★日本地質学会第115年学術大会
９月20日（土）～22日（月）
場所：秋田大学
http://www.geosociety.jp

学協会・研究会報告

第４回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム 付属九州縦断野外巡検参加報告

吉田　勝（ゴンドワナ地質環境研究所）
K.V. Kehelpannala（スリランカ基礎科学研究所）

昨年11月に行われた表題のシンポジウムに付属して，福岡から菱刈までの，九州をほぼ縦断する３日間の野外巡検が行われた．巡検対象地域は北から阿蘇火山，肥後変成帯，黒瀬川帯と菱刈鉱山であった（図１）．参加者は14ヶ国から21人に，巡検リーダー４人（大和田正明，亀井淳志，渡邊公一郎，小山内康人）と若手の協力者４人（中野伸彦，宮本知治，クリシュナン・サジーブ，米村和紘）を加えて，総勢は29人であった．巡検参加者には67ページの巡検案内書（英文, Owada et al., 2007）が配布された．案内書は九州の地質概略，各地質帯の概要とコース見学地点の記載からなり，どの章も最新の研究成果が盛り込まれてあった．

11月11日朝，福岡を小型バス３台とジープなど２台の合計５台のキャラバンで出発した．九州自動車道を松橋で出たところのストップ１は肥後帯で，小山内らによって発見された超高温グラニュライトだった．ストップは山林の中で，蛇紋岩中のブロックが林の中に点在しているものだった．結構立派な含サフィリングラニュライトのブロックが沢山あり，収穫は充分だった．肥後変成帯の延長とみなされる中国のデービー・ズル帯と同様に，将来はダイヤモンドやコエサイトも見つかるだろうなどの話題があった．

ストップ２は宇城市海東の道路法面の大きな露頭で（図２），優白質プールや脈を伴うガーネット・菫青石・珪線石・黒雲母片麻岩だった．ガーネットを含む優白質プールは部分溶融起源と説明されたが，一方優白質脈は後期の花崗岩活動に関連するとのことであった．ストップ３では，美里町岩野の道路に沿う緑川の右岸露頭を観察した．ここには，肥後帯の白石野花崗閃緑岩と，それを不整合で覆う阿蘇火山の熔結凝灰岩が露出していた．参加者の中でこの花崗閃緑岩の起源について議論があり，クラ・太平洋海嶺とアジア大陸東縁の衝突によって若いサブダクション物質が溶融してできたマグマに由来するという亀井博士の説明が説得力を持った．

その後バスは阿蘇火山に向かい，まず阿蘇外輪山の高森峠で阿蘇火山の全貌を望見し，渡邊教授に阿蘇火山の概要，活動史や周辺の地質の講義を受けた．バスは阿蘇の外輪山を下り，地獄温泉の旅館に入った．参加者はここで一泊目の温泉と日本料理を満喫することができた．

第２日目は，まず阿蘇火山とその周辺を見学した（ストップ４～７，図３）．阿蘇中岳への途中，上米塚のシンダーコーンを見学した．中岳では特別許可を得て，ガスマスクをつけて火口北縁に近づき，火砕岩類の見事な成層構造と，火口底のエメラルド色の湯だまり，さらに濛々たる噴煙に目を見張った．その後，我々は阿蘇火山博物館を見学し，野外見学でカバーできない阿蘇火山の全体像と歴史，さらには詳細な火山地質や岩石学を見ることができた．

阿蘇の次は黒瀬川帯の塩基性グラニュライトの見学だった（ストップ８）．球磨川の右岸にある八幡滝の大きな露頭で，どうみてもごく普通の弱変質閃緑岩のような岩石露頭だったが，よく見るとなるほどガーネットが沢山含まれている．石灰岩片の包有岩を含む大きな塩基性グラニュライトの転石もあった．参加者の中では，この岩石の起源について，構造性メランジュか，オフィオライトかなどの議論があった．その後，数時間のドライブでツアー一行は菱刈鉱山地区に入り，湯之尾温泉の旅館に落ち着いた．参加者はここでまた，温泉と和式の素晴らしい晩餐を大いに楽しんだ（図４）．

翌日11月13日は菱刈鉱山見学だった．鉱山事務所の講義室で渡邊教授に鉱山周辺の地質説明を受け，その後鉱山の職員らから鉱山，採鉱と関連の環境問題についての詳しい講義を頂いた．鉱山会社によれば，鉱山周辺の環境保全には細心の注意と万全の対策を払っているとのことであった．面白かったのは，地下深部の鉱脈周辺から湧出する熱水の一部は，鉱山近くの湯之尾温泉に配給されていることだった．旅館で私達が入った温泉も含金の鉱脈熱水だったというわけだ．私達は２グループに別れ，鉱山服に着替え，ヘルメットやヘッドライトも貸与され，バスに乗って斜坑を下り，地下約150ｍレベルの切端で含金石英脈とその周辺の火山岩起源の母岩を観察した（図５）．鉱山側にサンプル採集の許可を頂いたので，参加者はみな張り切って鉱石や岩石を採集することができた．しかし，まぶしい地表にでて採集標本を見てみると，残念ながらどれもあまりぱっとしたものではなかった．ふとかたわら，事務所の玄関を見ると，大きな「日本一産金量達成記念鉱石」がどっしりと鎮座しているではないか（図６）．我々はため息をしてそれを眺めた．万感こもごも，バスは高速道路を福岡まで約３時間のドライブで，夕方５時前には宿舎のKKRホテル博多に戻ることができた．

巡検全体を振り返ってみると，まず３日間の全走行距離400kmほどの中で，ストップは９箇所と少なく，露頭での参加者同士の議論を大事にしたものだった．参加者は学問的にも，或いは相互交歓のてんからも，大いに得るところがあったと思われる．私自身，大いに充実感があった．また，国外参加者が圧倒的多数であったが，リーダーと世話役が多数いたため，ほとんど不便はなかったと思われる．さらに，２晩の温泉泊まりは，温泉も晩餐も誠に申し分無く，参加者全員は大いに満足した筈である．日本では今後さらに国際シ

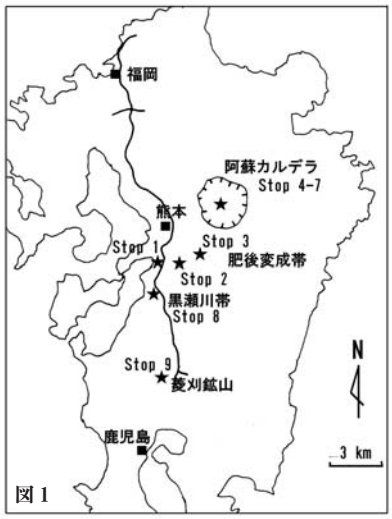


図１

図２

図３

図４

ンポジウムなどが多く開かれることになると思われるが，そのようなときの付属野外巡検の，一つの理想的な形として大いに参考とされる巡検であろう．このような素晴らしい野外巡検をお世話下さった関係の方々に，この場を借りて深く感謝したい．

文　献

Owada, M., Kamei, A., Watanabe, K. and Osanai, Y., 2007, High-grade metamorphic terranes and gold mine in Kyushu, Southwest Japan: Higo metamorphic terrane and Kurosegawa terrane, Aso volcano and Hishikari gold mine. Excursion Guide, IAGR-07 (Fukuoka) Post-Symposium Excursion guidebook, GRG Miscellaneous Publication No. 17, Gondwana Research Group.

図5

図6

第９回太平洋地域新第三系層序に関する国際会議（9th International Congress on Pacific Neogene Stratigraphy, 1st-3rd October, 2007, Tsukuba）報告

RCPNS国際組織委員会代表　国内実行委員会　委員長　**小笠原憲四郎**
（筑波大学生命環境科学研究科地球進化科学専攻・教授）

国際地質科学連合（IUGS）層序委員会の小委員会であるRCPNS国際組織委員会（Regional Committee of Circum Pacific Neogene Stratigraphy）と国内実行委員会が主催し，筑波大学生命環境科学研究科と産業技術総合研究所（地質情報研究部門）が共催で，さらに日本地質学会，日本古生物学会，石油技術協会が後援の上記国際会議は，2007年10月１日（月）から３日（水）に，筑波大学の大学会館国際会議室と産業技術総合研究所共同講堂大会議室を主会場に開催され，無事に終了しました（写真１・２）．また本会議の後，10月４日（木）から６日（土）の２泊3日で，アメリカ・ロシア・日本からの12名の参加者で，常磐炭田と仙台地域の第三系を対象とした地質野外巡検が実施され（写真３），この巡検も無事に終了しました．

本会議の主題は太平洋地域新生代の層序と年代，地質学事件の解明でした．科学プログラムでは，初日に「最近の太平洋地域各国の新生代層序の進歩」を課題にしたミニ・シンポジウムが開催されました．ここでは，ロシア，アメリカ合衆国，ニュージーランド，インドネシア，タイ，フィリピン，そして日本の最近の研究と成果が紹介されました．それらは，ロシア極東地域の層序と古環境解析の進展状況，アラスカ地域の新生界調査・研究の現状，南極の新生界層序と古環境変遷，インドネシアでの微化石層序の進展，タイの非海成層の哺乳類化石の層序や同位体に基づく古環境解析，そして日本における最近の統合微化石層序の進展，K-ArやAr-Ar年代測定精度の進展，さらにSr層序学の新生界への応用，堆積速度に基づく堆積層の年代・対比などが紹介されました．本国際会議での講演は，招待講演８件，口頭発表28件，ポスター発表20件の合計56件の発表が行われました．特に３日間にわたり配置された８件の招待講演は，各40分の時間で，それぞれ最新の年代・層序や古環境復元，地質学的事件の詳細やその原因など，非常に充実した内容のあるものでした．これらの中で印象深かったのは，ヤンガードライアス（ca. 12.9 Ka）の寒冷化事件が，実は北米大陸中央から北部にかけての大規模な隕石群の衝突によって，超微粒ダイアモンドを含むブラックマットの形成，氷河の溶融，その後の寒冷化，動植物群の絶滅と回復など，最新の寒冷化事件が地球外の隕石群衝突に起因したものであるとのシナリオでした．また，新生代の地球規模の珪藻休眠胞子の多産層準を認定したイベントの実態，精度の高い南極の新生代における寒冷化の変遷，さらに島弧・海溝系を代表する日本列島の造構造変動の変遷などの講演がありました．これらの講演は，本会議の一般の講演から投稿される論文とともに，2008年８月に刊行予定の本会議Proceedings（地質調査所研究報告の特別号）に掲載される予定です．

会議後の巡検では，常磐地域の古第三系と新第三系の不整合境界や下部中新統堆積相の見学，仙台付近では茂庭から下流域の名取川河床に連続的に露出している名取層群と仙台層群の見事なシークエンスを十分観察することができました．さらに最終日には地元東北大学の地質学分野の方々との飲み会も実現し，充実した巡検でした（写真３）．

本会議の事前に会議参加の登録をされた方々は，８カ国100名規模でした．さらに本学地球進化科学専攻の教員と院生などが加わり，充実した議論ができました．

10月２日には本学大学会館会議室において７カ国13名の国際組織委員会を開催しました．議題は，今回の開催準備と参加状況報告，特別表彰，Proceedings刊行計画，次回第10回RCPNSの開催場所と代表者の選出，その他でした．ここで議論の結果，本国際会議の開催と新生代層序に関する貢献等から土　隆一氏とJim Ingle氏に国際組織委員会から特別表彰をすること，およびProceedingsの編集体制が承認されました．さらに次回の開催はニュージーランドが積極的に引き受けることで了承され，代表者の選出も当事国の委員に一任することで了承しました．

以上，ここに本会議の概要を報告し，さらに共催と後援の関係機関，および寄付を頂いた企業等に御礼を申し上げます．なお本会議のAbstracts集の残部が少し有りますので，ご希望の方は事務局までご連絡ください．

上から，写真１．産総研大会議室での集合写真（最終日の一部参加者の集合写真）．写真２．産総研における閉会後の打ち上げ会．写真３．会議後の巡検参加者（仙台市青葉通りにて）．

地質学会はジオパーク，IYPEを積極的に推進しています

日本地質学会会員の皆さんへ

日本地質学会副会長　伊藤谷生

理事会は，日本地質学会の各支部に対し，学会の事業として最重要課題に位置づけているジオパーク設立推進活動と「地質の日」設置における広報・普及活動への積極的な取り組みを要請いたしました．また，これらの活動が，今年を中心年とするIYPE（国際惑星地球年）への協賛事業ともなるように創意工夫をしていただくことをお願いいたしました．いずれの活動も社会に開かれた一般市民レベルでのものになることと思いますので，各会員におかれましては専門家としてそれぞれのお立場で，これらのとり組みにたいしご理解とご協力をお願いいたします．また，支部の一員として所属支部の支部長・支部幹事会等から提起される諸活動にも積極的に加わっていただき，地質学の普及と振興のためこれらの活動を推進し，盛り上げて下さいますようお願いいたします．以下に各支部宛にお願いしたことがらの要旨を掲載いたします．

1．ジオパークの設立推進について

ジオパークの活動は，地質遺産の保全，それを基にした教育研究普及，さらに地域の経済振興（ジオツーリズムの振興）がその大きな趣旨です．この活動は，地質学に依拠するだけではなく，他の社会的価値といかに結びつけ，地域の発展に寄与・貢献できるかが重要なことです．この活動を推進し発展させることは，地質学者ならびに地質学会の地位向上にも大きく貢献するもので，日本地質学会もその一翼を担う重要な活動です．今年の春には，第三者機関である「日本ジオパーク委員会（仮称）」が立ち上げられる予定です．この委員会では，日本の候補地を世界ジオパークネットワークへ登録するための選定をすることになります．そのための一歩として，日本のジオパークを100程度立ち上げることが当面の目標になりそうです．日本地質学会としては積極的にこの事業に貢献するために，各支部に対し下記の協力要請をいたしました．

1）「地質学会ジオパーク支援委員会（仮称）」への委員の推薦

各支部の代表を中心とした「地質学会ジオパーク支援委員会（仮称）」を新たに理事会の下に設置します．各支部から委員を推薦していただき，具体的な検討を開始いたします．

2）各支部の地域内から，ジオパークの候補地を推薦していただく

候補地の選定は，科学的にもちろんのこと，普及・教育活動を行う場所という点においても重要です．これまで多くの研究者によって蓄積された地域の地質学や資源開発，自然災害や防災，環境問題，生活とサイエンスを結びつける話，資源開発に関わる地元の話を発掘するなど，重要な素材が各地に山積していることでしょう．それらを地質学的現象・地質遺産と絡めて，一般市民の興味をひくストーリーを作ることができるかどうかが，ジオパーク設立への鍵となります．ジオパークは，ジオツーリズムによる普及教育と地域の振興に貢献し，ジオパーク設立支援によって地質学の社会的認知度の向上と地球科学分野の研究発展と人材の確保にもつながることが期待されます．

2．「地質の日」の普及イベント活動について

2007年３月に地質学会や産総研など関係組織が発起人となって，５月10日を「地質の日」とすることを決めました．すでにNews誌等でも案内をしていますのでご覧いただいているものと思います．地質学会をはじめとする「地質の日事業推進委員会」*では，今年の５月10日の「地質の日」に向けて，宣伝のポスター作成や，記念日登録**などの広報活動に取り組んでおります．また，全国の地質関係の博物館などにたいしては，地質の日に関連する行事の企画を呼びかけ，既にいくつかの博物館ではそれに応じた計画が進んでおります．

地質学会としては各支部にたいして「地質の日」の広報・普及活動として，以下のような活動を積極的に行っていただくよう要請いたしました．

*　事業推進委員会構成：日本地質学会，日本応用地質学会，日本情報地質学会，日本古生物学会，資源地質学会，日本堆積学会，日本第四紀学会，（独）産総研地質調査総合センター，日本科学未来館，北海道立地質研究所，神奈川県立生命の星・地球博物館，（社）全国地質調査業協会連合会，（社）東京地学協会，（NPO）地質情報整備・活用機構，順不同

**　すでに記念日登録が完了し，日本記念日協会のWebサイト（http://www.kinenbi.gr.jp/）に掲載されています．

1）５月10日を中心とする，支部としての「地質の日」行事の企画・検討
2）地域の博物館や教育機関からの協力要請にたいしては積極的に応じていただく．
3）地元の博物館や社会教育機関などにたいし，「地質の日」の普及と関連行事等の企画の提案．たとえば，地元の地質百選の活用やジオパークの活動などとセットにした巡検，現場見学，地質相談会，室内での実験．参加型のイベントと合わせた講演会など．
4）「地質の日」の行事企画はWEB（http://www.gsj.jp/geologyday/）や事業推進委員会を通じて紹介．また，独自のサイトがある場合は，地質の日のサイトにリンクを張ることを要請．

3．IYPE事業への参加

国際惑星地球年（International Year of Planet Earth；IYPE）は，国際地質科学連合（IUGS）とユネスコが呼びかけ，2005年12月の国連総会で宣言された，2008年を中心として2007年から2009年を活動期間とするプログラムです．「社会のための地球科学」を標語とし，災害，資源，健康，気候，地下水，海洋，土壌，地球深部，巨大都市，生命 の10の科学プログラムとアウトリーチプログラムからなります．地質学会も日本IYPE国内委員会に対し，同事業に参加することを表明しました．

各支部に対し，2009年までに実施される支部行事等（ポスター，出版物等）には，IYPEへの参加行事であることを謳い，ポスター，出版物等にはIYPEのロゴマークを積極的に用いることを要請しました．

ロゴマークはWEB（http://www.gsj.jp/iype/index.html）からダウンロードして利用できます

ジオパーク推進活動の現状と今後

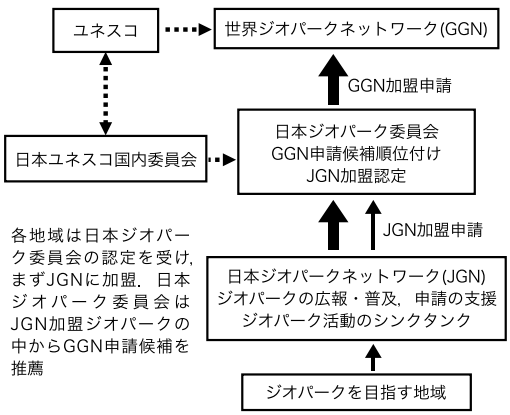
2008.1.21
日本地質学会ジオパーク設立推進委員会

ここまでの活動と現状

・ジオパークの普及活動
　○学会：第四紀学会シンポジウム（1月），地球惑星連合大会ユニオンセッション（5月），地質学会市民講演会（9月），日本地理学会シンポジウム（3月予定）
　○Websiteの整備（日本地質学会Website内），Q&Aの作成
　○新聞取材への対応：朝日新聞科学面（6月），高知新聞（8月），北海道新聞（9月）他多数
　○地質ニュースジオパーク特集号発行（7月）
　○地域のイベントでの講演：山陰海岸（7月），島原市，有珠洞爺湖（8月），南アルプス（11月），島根大学（12月），高知（1月），有珠洞爺湖（1月）
・興味を示す自治体，博物館などへの情報提供
・地域同士の連携を行う連絡協議会の支援（10月4日発起人会，12月26日設立総会GUPIがサポート）
　○13地域が連絡協議会に参加
・国際会議への出席
　○第2回世界ジオパーク会議で発表（06年9月）
　○アジア太平洋地域ジオパーク会議で発表（07年11月）
　○ジオパーク国際会議（ドイツ，2008年9月）での各地域の発表を支援
・一部地域では具体的な申請に向けた準備を開始

今後の体制

1．学識経験者，観光業界代表などをメンバーとし，文科省・環境省など関連省庁をオブザーバとする日本ジオパーク委員会の設立
　・日本ジオパーク委員会は，ジオパーク候補地域を評価，日本ジオパークネットワーク加盟ジオパークを認定し，世界ジオパークネットワーク申請候補の順位付けを行う予定
2．地質学会，地理学会，第四紀学会，火山学会などでの支援活動
　・各学会支援委員会は各ジオパーク，及びジオパークを目指す地域の科学・教育面を支援
3．連絡協議会の日本ジオパークネットワーク（JGN）への格上げ
　・日本ジオパーク委員会が認定した地域が，日本ジオパークとしてネットワークを形成．準備中の地域のオブザーバ参加によるさらなる推進



「地質の日」の地域でのイベント企画例

2007.11.13
「地質の日」事業推進委員会事務局

＜巡検・見学会など＞

地質百選の見学会
地層見学会の実施（一般向け巡検）（町の中の地学等も含む）．
石油，石炭，鉱山，採石場の見学会．
建物，構造物を地質の目で見る見学会（ダム・トンネル）（完成，工事中とも）．

＜体験イベント＞

各地の博物館イベント（地質情報展ネタはGSJで助言可能→マニュアル作りが必要か）．
　→化石のレプリカ作り，岩石を割ってみようなど．
河原で化石探し．
　→実際に許可を取って地層から掘る場合と河原の礫の中の化石を探す場合等
椀かけによる鉱物探し（ガーネットなど）．
　→いくつかの強さの違う強力磁石で分離してみるとおもしろい．
お菓子で作る地層・化石・鉱物．
塩水の結晶作り（ゆっくりだと日が暮れる，鉱物のでき方）．
井戸掘り（ボーリンク？上総掘り？）をやってみる．
　→できればボアホールカメラで中を覗くなどもおもしろい．
地震を起こしてみよう（油圧プレスによる岩石破壊実験）．
紙重ね地質模型を作る．
地質鳥瞰図のジグソーパズル．
重力計を持って歩く．階段の上り下りで重力が変化することを体験．
人工地震で地下を見る（測線を引いてやってみる）．
電子顕微鏡で見る微化石（珪藻土）など．
砂鉄から（たたら）製鉄．
電気石で蛍光灯を光らせる．
住宅の地盤の相談会．

＜出版物＞

関連出版物等の発行日を「地質の日」に関連させる．

＜その他＞

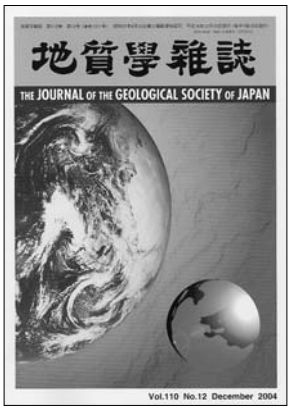
全国一斉に同じイベントをやってWEBカメラで中継．
記念絵はがきを作り，未来の自分に投稿．10年後に博物館等で開封．
その地域の大きな地質図をはってみる．

お問合せ先：

「地質の日」事業推進委員会事務局
産業技術総合研究所地質調査情報センター地質調査企画室
TEL　029-861-3687（担当：吉川・下司）
geologyday-jimu@m.aist.go.jp
http://www.gsj.jp/geologyday/

国際惑星地球年日本（IYPE日本）事務局
産業技術総合研究所地質調査総合センター地質調査企画室
TEL　029-861-3687（担当：宮崎）
http://www.gsj.jp/iype/index.html

学会HPジオパークのサイト
http://www.geosociety.jp/geopark/geopark.htm



「地質学雑誌」新表紙デザイン募集

平成20年１月22日
日本地質学会

日本地質学会は，学会学術誌である「地質学雑誌」を毎月発行しておりますが，2009年１月号より表紙のデザインを一新することになりました．つきましては会員，非会員の方々から広く表紙のデザインを公募することになりました．多くの皆様にご応募いただきたく存じます．

１．新表紙デザインの趣旨

日本地質学会が発行している「地質学雑誌」は，本邦の学術的な地質学的新知見を掲載するにとどまらず，世界中の地球科学的な新知見を広く公開すること，地球に関する知識を集積，共有することを目的として発行されています．地域的で詳細な地球科学情報は陸上，海域の区別なく網羅され，またグローバルな視点での地球環境変遷，災害，資源などの問題，地学教育など次世代育成のための問題も取り扱われています．日本地質学会はこのような地球科学の専門かつ総合的な学会であり，また人々の生活に密着した学術分野のリーダーとして，増々その重要性が理解されつつあります．私たちの学会のポリシーは，地球を知る（知の創造への貢献），地球を守る（人類と地球の持続的生存への貢献），地球と歩む（当面する社会要請への貢献）ということを掲げています．これらのポリシーを背景に，学会の顔である「地質学雑誌」の表紙を，新しい時代の要請にふさわしいデザインに変更したいと思います．

２．応募要項

１）応募資格：会員，非会員を問わず，どなたでも応募できます．
２）応募点数：点数の規定はありません．個人，グループで何点でも応募できます．
３）サイズ：Ａ４版（裏表紙とのセットでも可）
４）必須項目１：「地質学雑誌」という文字は学会規定の書体を用いてください．この文字の画像データは学会ホームページ（http://www.geosociety.jp/outline/content0050.html）からダウンロード可能です．
５）必須項目２：日本地質学会のロゴを使用する場合は，必ず学会ホームページからダウンロードした画像を使用してください．ロゴの使用は必須ではありません．
６）作品は他の機関などに投稿あるいは公表していないオリジナル作品に限ります．応募にあたっては，オリジナリティーを保証するための保証書（地質学雑誌投稿規定；http://www.geosociety.jp/publication/content0009.html）を添付していただきます．
７）採用された作品は著作権を日本地質学会に譲渡していただきます．また，日本地質学会は，地質学雑誌の表紙以外に，サイト上での掲載，映像他に，あらゆる二次利用を行うことができ，その際，応募者は報酬を求めること等は一切できません．
８）採用された作品のデザインを修正して使用することがあります．
９）応募された作品（データ）の返却は一切行いませんので，応募者の責任で事前にバックアップ等をとって下さい．なお，採用されなかった作品のデジタルファイルは審査終了後削除します．また学会が得た個人情報はこのデザイン公募目的以外には使用いたしません．

３．投稿方法

１）デジタル作品の場合は，高画質のPDFもしくはJPEGなどの一般的な画像ファイルとして（ただしファイルサイズが２MBを超えない範囲を目安），日本地質学会に電子メールで送ってください．宛先：journal@geosociety.jp，subjectは「表紙公募」としてください．電子メールで送れないサイズのファイルである場合は，別途CD-ROMにて下記のアナログ作品と同じ宛先に郵送願います．また採用された作品のオリジナルファイルは別途送っていただきます．
２）アナログ作品の場合は，郵送にて日本地質学会事務局までお送りください．
〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル６Ｆ
３）作品の趣旨を簡単に説明する文章を添えていただいても結構です．

４．締め切り

2008年３月31日（月），17：00到着分まで

５．賞金

採用作品提供者（グループ）には，賞金として￥50,000を進呈します．また「地質学雑誌」，「地質ニュース誌」などの学会誌に公表し，その栄誉を称えます．

６．審査方法

１）応募作品の中から審査委員会（委員長：日本地質学会長）で決定します．なお，応募者情報（氏名・住所・所属等）は一切審査員には公表しません．また送付されたデジタル作品に対して，追加のデータの送付をお願いすることがあります．

審査結果は日本地質学会総会（2008年５月）で公表し，速やかに学会ホームページでも公表いたします．

７．その他

全ての問い合わせは，学会事務局にお願いいたします．
電話：03-5823-1150（代表）FAX：03-5823-1156
電子メール：journal@geosociety.jp
学会ホームページ：http://www.geosociety.jp/

☆関東支部 お知らせ

第２回研究発表会「関東地方の地質」一般講演募集のお知らせ

日本地質学会関東支部では，2008年６月８日（日）に関東地方の地質研究の発展および若手への研究発表の場の提供を目的とした標記研究発表会を開催いたします．昨年の同テーマ研究発表会は多くの方のご参加・ご発表によりお陰様で盛況のうちに終えることができました．そして今回，第２回研究発表会開催の運びとなりました．本研究発表会における一般講演を募集いたします．

これまでの地質大構造の議論や地球史研究は，地道な地域地質研究に支えられて展開されてきました．また，地質災害や地盤環境問題を考えるときも，地域地質研究がベースにあってこそ有意義な議論が生まれます．地域地質の研究には，それぞれの地域での研究者間の交流が不可欠です．そして，地域地質の研究を推進・発展させていくことが支部活動の重要な役割と考えます．

この研究発表会では，特に学生・若手研究者・若手技術者への発表の場の提供を考えています．この場合，学会員の有無を問いません．卒論・修論の内容や土木地質の調査結果などを是非この機会に発表し，意見交換や交流の場としてはいかがでしょうか．もちろんベテラン研究者・技術者の方の発表も歓迎いたします．

なお，研究発表会では関東地方の地域地質研究の発表を歓迎しますが，地質学に広く関係する内容ならばそれ以外のテーマも受け付けます．

当日は支部総会も同時開催されます．

日時：**2008年６月８日（日）**10：00～17：00
会場：早稲田大学国際会議場第１会議室
　　JR山手線高田馬場駅から学バス（02）早大正門行き終点下車徒歩３分
　　東京メトロ東西線早稲田駅から徒歩５分

講演申込要領
講演内容：関東地方の地質研究を歓迎しますが，地質学に関係する内容ならば全て可．
申込資格：学会員（連名の場合はどなたか一人が学会員ならば可），ただし学生および若手研究者・技術者（35歳未満）は学会員でなくとも可．
投稿・発表料：無料
講演方法：口頭あるいはポスター（口頭発表は学生を優先させていただきたく思います．なお，口頭発表の場合はPCプロジェクター使用とします．ファイル形式はpptとします）
講演持ち時間：15分（質疑応答含む）
講演申込方法：発表者（氏名・所属・責任者連絡先E-mail），発表タイトル，発表形態（口頭・ポスターのいずれか）を下記担当幹事宛に電子メールかFAXでお知らせください．
担当幹事：中澤（産総研），E-mail:t-nakazawa@aist.go.jp，FAX 029-861-3591
講演申込締め切り：2008年３月31日（月）
講演要旨締め切り：2008年５月９日（金），様式は後日お知らせします．

上記案内は関東支部ホームページhttp://kanto.geosociety.jp/ にも掲載されています．ご参照ください．

箱根火山見学会のお知らせ

１月号でお知らせしました「箱根巡検」の日程が決まりましたのでご連絡いたします．関東支部では，日本地質学会発行の国立公園リーフレット１「箱根火山」出版を受けて，箱根火山巡検を企画いたしました．巡検ではリーフレットの編集責任者でもある日本大学高橋正樹教授に，この新しい箱根火山像について解説していただく予定です．見学地詳細につきましては，次号にてご案内いたします．
日時　**2008年５月17日（土）～18日（日）（１泊２日）**
費用　一般会員20000円，学生会員10000円（非会員はそれぞれ5000円増）
　この金額には貸切バス代，宿泊代，保険代などが含まれます．
募集人員　20名（先着順）
講師　高橋正樹（日本大学文理学部）
観察地点　１日目　猿沢，須雲川橋，畑宿，大観山，長尾峠など
　　２日目　大涌谷，幕山，真鶴岬など
応募受付期間　３月18日（火）～４月18日（金）
応募方法　下記連絡先にメールか葉書でお申し込みください．
メールの場合は件名に必ず「箱根火山巡検申し込み」など他のメールとの区別がつくような具体的な語句を入れてください．なお，申し込みには，住所，氏名，所属，年齢，性別，連絡先を明記してください．
問い合わせ
　〒250-0031　神奈川県小田原市入生田499
　　神奈川県立生命の星・地球博物館
　　学芸部　笠間友博
　TEL　0465-21-1515
　E-mail　kasama@nh.kanagawa-museum.jp

☆中部支部 お知らせ

2008年地質学会中部支部年会のおしらせ

2008年地質学会中部支部年会を下記のとおり開催します．今回は新潟県支部会員が中心となって開催します．年会内容の詳細及び参加登録等については，追って本誌に掲載の予定です．皆様のご予定にぜひ入れておいてください．

日程　**2008年６月28日（土）**
　　総会・シンポジウム「歪み集中帯とフォッサマグナ」
　　2006年６月29日（日）　地質見学（未定）
会場　新潟大学五十嵐キャンパス

問い合わせ先
　〒464-8602
　　名古屋大学理学部地球惑星科学教室気付
　　日本地質学会中部支部事務局　竹内　誠
　TEL：052-789-2525
　E-mail : takeuchi@eps.nagoya-u.ac.jp

第二回国際地学オリンピック国内選抜実施・募集

主催：国際地学オリンピック日本委員会　共催：日本地球惑星科学連合

第一回国際地学オリンピック（International Earth Science Olympiad；IESO）が2007年10月に韓国にて開催されました．現在の地球環境問題や自然災害への対応などを考える上で，地球科学教育は不可欠です．このオリンピックは高校生への地球惑星科学教育の振興のみならず，地球惑星科学を通じての高校生の国際交流および地球惑星科学の社会への周知も目指しております．そこで，日本の高等学校などにおける地学教育，地学分野の教育の振興も考慮して，2008年の第二回大会から日本も生徒を派遣することになりました．以下の要領で国内選抜を開催し，国際地学オリンピックへの代表者派遣を行います．理系クラスの生徒だけでなく，文系クラスの生徒で大学入試センター試験にて地学を選択しようと考えている生徒の応募も歓迎します．国際交流に積極的な多くの生徒の参加を期待しています．

●第二回国際地学オリンピック（国際大会）

日程：**2008年８月31日から９月７日までの８日間**
場所：フィリピン共和国
派遣対象者：2008年７月１日で19才未満の高校生４名（費用は主催者負担）
（ただし，高等専門学校１-３年生，中等教育学校４-６年生などの高等学校に対応する学校の生徒も含む）
第一回大会の様子はIESOのHP＜http://2007ieso.or.kr/＞で見ることができます．また，日本地球惑星科学連合地学オリンピック小委員会による視察の報告は日本地球惑星科学連合のHP＜http://www.jpgu.org/education/1stIESOreport.htm＞に載っています．

●第二回国際地学オリンピック（国内選抜）

a）一次選抜
募集期間：**２月１日から２月29日**
対象者：国際大会に参加可能な高校生・中学３年生および相当学年の生徒
日時：**３月16日（日）**（10：00-12：00）
場所：原則として参加者の所属する高等学校等にて実施
（各校で筆記試験の対応ができない時や中学生の申し込みの場合はその旨を申し込み用紙にご記入ください．近隣の選抜会場校をご紹介いたします．また，自治体によりましては入試などのため選抜会場校となれない場合もあるかと思います．その際は近隣の大学等で筆記試験を行いますのでその旨もご記入ください．）
試験内容：高等学校「地学I」の内容に準拠．（大学入試センター試験程度の難易度の筆記試験．ただし，記述式問題も含む．）
費用：無料．ただし，選抜会場までの交通費等は参加者負担．
一次選抜者：３月末頃までに20名程度決定．申し込みの先生を通して結果を連絡．

b）二次選抜
日時：**５月31日（土）**（９：00-15：00）
場所：東京大学（予定）（交通費等の補助はありません．）
内容：実技試験（詳細な内容は検討中．例：地質断面図作成）
面接時に英語で２-３分の簡単な自己および自校紹介．（ただしメモ参照可）
一週間以内に国際大会派遣生徒４名決定．

c）国際大会派遣生徒の研修
１）通信研修：６-８月
２）合宿研修：日程：８月中（２-３日間を予定）
場所：神奈川県箱根近辺（費用は主催者負担）

一次選抜への応募方法
・参加希望の生徒は，高等学校（および相当学校）に在籍している場合は在籍校の地学（または他の理科）の先生，中学校３年生（および相当学年）の場合は在籍校の理科の先生を通して申し込んでください．
・生徒の応募申し込みを受けた先生は各校毎にまとめて，e-mailで申し込むか郵便にて申込用紙を事務局宛に２月29日までにお送りください．e-mailの場合は申込用紙と同じ内容を記載してください．
・申込用紙はhttp://www.jpgu.org/ieso/より入手して下さい．

問い合わせ・申し込み先
〒113-0032　東京都文京区弥生2-4-16
学会事務センタービル４F　日本地球惑星科学連合気付
国際地学オリンピック日本委員会事務局
esolympiad@yahoo.co.jp　TEL 03-3815-5256　FAX 03-6914-2088

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

新シリーズ登場！

「箱根火山たんけんマップ
一今，生きている火山」

A2版両面フルカラー印刷．
ハンディタイプで野外での観察に最適です．
教材としてもぜひご活用下さい．

小・中学生向け地質リーフレット新登場．
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで．<main@geosociety.jp>　電話03-5823-1150

会員頒価　300円

研究室紹介
大阪市立大学大学院理学研究科 生物地球系専攻地球物質進化学講座 地球史学研究室

博士課程後期２年生　菅森義晃

地球史学研究室の概要

大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻の地球学教室には２つの大講座があり，地球史学研究室は地球物質進化学講座に所属しています．本研究室では，過去の地球や生命の進化を明らかにすることを目的に地層や化石からそれらの情報を読み取るため，研究室構成員は研究に勤しんでいます．

2007年度現在，本研究室は八尾　昭教授（層序学・古生物学），前島　渉教授（堆積地質学・砕屑物堆積学），江崎洋一准教授（古生物学・地球生物学）の教員３名，研究生２名，後期博士課程４名，前期博士課程３名，卒論生８名の合計20名で構成されています（写真１）．９年前に，院生コーナーで研究室を紹介した時とは，教員以外はほとんどのメンバーが異なっており，“生物相”の移り変わりを感じさせてくれます．

セミナー（写真２）は基本的に隔週木曜日の15：00から行われ，各人は前期と後期にそれぞれ１回ずつ発表の当番にあたります．１回のセミナーで２～３人が話題提供します．後期には，修論生と卒論生はさらにもう１回発表を行っています．話題提供者は毎回レジメを作ってセミナー出席者に配り，進行係が用意するお茶以上にホットな議論が展開されます．最近では，海外での国際会議に発表した院生が，セミナーで会議の様子の報告（研究発表とは別枠）を行うことも多く，色々な国の話や海外での国際会議の体験談を聴けて参考になります．

研究室のホームページでは，セミナー情報や構成員の自己紹介，活動状況などを紹介しています．URL：http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos/geo6/esmain.html

研究室の研究生・院生・学部生紹介

私たちの研究テーマは，日本の地質・古生物だけでなく，海外の地質や古生物，さらには現生生物も扱っており多岐に渡っています．また，最近は留学生も毎年在籍しており，日本人在籍者にとっては他国の文化を学ぶ良い機会にもなっています．以下では研究テーマと同様に個性的な研究室のメンバーを紹介します．

Leila Alipour（D3）

Protocorallite is the first formed corallite of a compound corallum whose ontogeny and initial growth stage of colony development have not yet been fully understood. Moreover Waagenophyllidae are typical Permian corals and widely distributed only in the Tethys region. So I do research on protocorallite and hystero-corallite growth and relationship between them in light of initial colony development of waagenophyllid rugose corals from Iran.

嶋川未来子（D3）

ペルム紀古世放散虫*Albaillellaria*である*Pseudoalbaillella*と*Albaillella*を研究しています．これらの*Albaillellaria*各種がどのように繁栄し衰退するのか，またそれらの系統関係，そしてこれら放散虫化石が生存していた当時の古環境の推測を目的に，日本の兵庫県篠山地域と中国広西壮族自治区欽州地域の２つの連続セクションにおいて検討しています．

写真１：地球史学研究室の集合写真．９年前と同じ位置で撮ってみました．

菅森義晃（D2）

ペルム紀～ジュラ紀初期の日本列島の形成史を明らかにすべく，西南日本内帯の超丹波帯と丹波帯の層序を中心に研究しています．私の主たるフィールドは兵庫県篠山地域と大阪府北部の北摂山地で，ペルム紀の砕屑岩を主体とする地質体（超丹波帯）と三畳紀～ジュラ紀古世の砕屑岩の年代を持つ堆積岩複合岩体（丹波帯）の研究から当時の日本にアプローチしています．露頭は様々な情報を保持しており，如何にしてその情報を取り出すか思案しながら露頭を叩いています．

徳田悠希（D1）

私は本邦新生界から豊富に産出するにも関わらず，その生態的な実態が不明であるFlabellidae科六射サンゴ（非造礁性）の骨格構成や機能形態学的な研究を行っています．Flabellidae 科のサンゴは多様な生活様式（固着～自由生活）と幅広い生息域（浅海～深海）を持っていますが，特に軟底質上に自由生活する*Flabellum*属と*Truncatoflabellum*属をターゲットに，彼らの進化と軟底質への適応戦略を研究しています．また，サンゴ骨格のバイオミネラリゼーションにも興味を持っています．

都築　宏（M2）

私は三重県志摩半島東部の秩父帯を研究しています．約40年前の学部生の時にも同様の地域を研究していましたが，40年の間に秩父帯の捉え方ががらりと変わってしまいました．ルートマップをつくり，地質構造を解明すること，泥岩・チャート・珪質泥岩などの堆積年代を，紡錘虫だけでなく放散虫を用いて決め，地史を編むことを目指しています．院生になってバイクの免許を取り，網目のように出来た林道を調査し，さらに精度の良い地質図作りを目指しています．66歳の青春です．

室田真宏（M2）

白亜紀最後期の地層である和泉層群北縁相の堆積システムについて研究しています．和泉層群は西南日本の中央構造線の左横ずれ断層によって形成された堆積盆地に堆積したタービダイトとそれに関連する粗粒砕屑岩からなります．野外調査において，比較的に連続して北縁相の地層を観察できる地点を選び，地層の堆積学的な検討を行い，堆積物の堆積過程と堆積環境を明らかにし，堆積システムを復元することを目的としています．

院生コーナー

猪岡　聖（M1）

砂漠地帯の湖縁辺部における堆積作用について研究しています．エジプト・ファイユゥム地域（カイロの約100km南）にあるカルン湖は，紀元前20世紀にアメネムハットⅢ世によってナイル川から運河が造られ，それまで－２mであった湖面は＋18mにまで上昇し，湖が拡大しました．その後運河の放棄により湖水位は下降を続け，現在の湖面は－45mとなっています．湖の最拡大期に湖縁辺に堆積した地層を対象に，堆積作用と堆積システムの形成過程を明らかにしていきたいと考えています．

Hossam Tawfik AbdEl-Hammed（研究生）

The main aim of my work is to establish a general scheme that defines the relationship between petrophysical parameters of clastic sedimentary rocks, especially fluvial and shallow-marine sandstones, and their sedimentary facies, as well as finding out the role of diagenetic processes and their effectiveness in modifying the reservoir properties. Thus plug samples were collected from Cambrian Araba Formation at G. Somr El-Qaa that located in northern part of the Egyptian Eastern Desert, Gulf of Suez, Egypt, about 67 km west of Ras Gharib Town and will be analyzed by ordinary polarized microscope, XRD, SEM, CL, porosimeter and permeameter.

飯田啓紀（B4）

放散虫は海洋に生息するプランクトンの１つで，その化石には海洋環境の情報が記録されていると期待されます．僕は、美濃帯犬山地域鵜沼セクションのジュラ紀中世Bajocianのマンガンノジュールに含まれるXiphostylidaeの放散虫の種数、個体数、形態を層準ごとに計測・観察し，これらの結果に基づいて古海洋環境を明らかにすることを目指しています．放散虫とホッケーに愛情を注ぐ日々が続いています．

石井真美子（B4）

非造礁性単体六射サンゴの軟体部の周期性の解明，骨格の形成保存能の実態の解明により，骨格成長輪の地質学的な意義を明らかにすることを目的として研究を行っています．

井下見苗（B4）

美濃帯犬山地域のジュラ紀付加体珪質泥岩（鵜沼セクション）中のマンガンノジュールに含まれる，ジュラ紀中世Bajocianの放散虫化石である*Saturnalidae*の種類の変化，種類毎の個体数変化，種類毎の形の変化傾向を検討し，その傾向と当時の海洋環境変化との関係性について研究しています．

入江信文（B4）

自分の育った土地がどのような地質なのかという興味から大阪府北部の箕面地域の中・古生代地質体について研究しています．箕面地域には超丹波帯と丹波帯が分布しており，本地域における両者の層序，境界，地質構造，堆積年代に関して問題点が指摘されています．私はこれらの問題点を解決し，箕面地域の超丹波帯と丹波帯の形成過程を明らかにしたいと考えています．

澤　真平（B4）

造礁性非固着性単体六射サンゴのセンスガイは，まれにクマサカガイによって殻表面に生きたまま付着させられることが知られています.しかしこのような限定条件でのセンスガイの生態は知られていません．そこで私は，水深200mの海域より採取された試料をもとに，クマサカガイに付着させられたセンスガイや他の被付着物の付着様式を解析し，センスガイの限定条件での生息姿勢，適応戦略の解明を目指しています．

写真２：セミナー開始前の様子．

千徳明日香（B4）

現生サンゴを知ることは，現生サンゴのみならず化石サンゴの形態的な特徴や古生態，化石と現生生物間の構造的・系統的な類似性を理解・認識するために不可欠です．そのことをふまえ，現生非造礁性群体六射サンゴ（*Dendrophyllia*属）の『分岐状群体の成長規則性を解明』を目的として研究を行っています．大学院に進学後は化石種等と比較・検討することにより，『無性増殖様式と成長様式の時代・系統的変遷』を明らかにしていきたいと考えています．

田端祥世（B4）

中国南部の広西壮族自治区外里セクションの最上部ペルム系～下部トリアス系炭酸塩岩を試料として，下部トリアス系微生物岩の構成・組織・構造から，ペルム紀末の生物大量絶滅後の地球生物環境を明らかにすることを研究のテーマにしています．微生物岩の形成様式を明らかにし，微生物岩の堆積環境や環境変遷の復元，地球生物環境の高解像度の復元を行なっていきたいと考えています．

松本治宏（B4）

私は和歌山県西部の三波川変成帯について研究しています．和歌山県西部の三波川変成帯は北から点紋帯，無点紋帯，御荷鉾帯の３帯に区分れており，比較的変成を強く受けていないとされている無点紋帯，御荷鉾帯について変成以前はどういった地層であったのか，また現在の構造がいかにして形成されたのかを解明していきたいです．

桑原希世子（研究生）

放散虫化石に保存された生物進化や地球環境変動の記録を読みとき，地球と生物との関連を理解したいと考えて研究を進めています．これまで，日本や中国の試料を扱い，放散虫生層序の研究や，放散虫化石の個体数や大きさの時間的変化を調べる研究を行ってきました．現在，ペルム紀放散虫（例えば*Albaillella*属）の系統進化の復元，高精度の生層序区分の設定，古生物地理の復元などに興味をもっています．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

tksmcdr@hiroshima-u.ac.jp　高島千鶴（広島大）
iba@eps.s.u-tokyo.ac.jp　伊庭靖弘（東京大）
s059702@matsu.shimane-u.ac.jp　河野重範（島根大）
tsuji@sci.ehime-u.ac.jp　辻　智大（愛媛大学）

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円
第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円
第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円
第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）
第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒290円
第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円
第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．
第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~
（売り切れました）
第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第57号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．
第58号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第59号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）
国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ
箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円

国立公園地質リーフレットシリーズ
1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか
第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円
第114年見学旅行案内書（2007年札幌）　会員頒価2,400円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

表紙紹介

IODPジオハザードワークショップとセントヘレンズ山巡検

IODP Geohazard Workshop and Field excursion to Mt. St. Helens

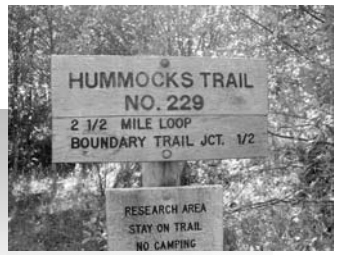
写真・文：**川村喜一郎**（深田地質研究所），**山田泰広・宮川歩夢**（京都大学）

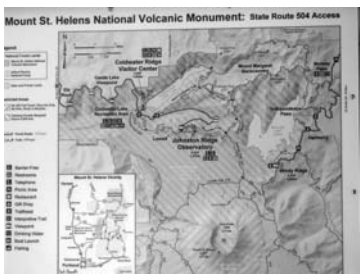
ジオハザードワークショップの風景

8月26日から31日までの6日間，米国オレゴン州ポートランドの宿泊施設McMenamins Edgefieldにて，IODPジオハザードワークショップが開催された．このワークショップには60名を超える参加があり，海洋における今後のジオハザード，特に海底地すべりに関する様々な課題が議論された．海底地すべりは，沈み込み帯で発生するもの，非活動的縁辺部で発生するもの，その他（主として火山体崩壊によるもの）の3つに分類される．まずハワイ島周辺海域やエトナ火山を例とした火山体崩壊に伴う海底地すべりの可能性について議論された．日本にも多くの山体崩壊の事例やそれに伴う津波の発生の事例がある．特に，寛政4年の雲仙普賢岳周辺の眉山の崩壊とそれに伴う津波の発生は，島原大変として絵図に記録されており，今後のこのような研究において重要な物証であると考えられる．次に非活動的縁辺部の例として，大西洋沿岸での大規模海底地すべりの発生要因（主として海水準低下に伴うメタンハイドレートの崩壊）やその発生頻度，発生間隔などが議論された．海底地すべりが小規模であったとしても，その運動速度や発生水深によって津波が増幅される可能性があることが議論された．日本周辺などの沈み込み帯でも，海山衝突に伴う付加体の巨大崩壊が考えられているが，話題の中心ではなかった．しかし，海底活断層の活動頻度などを議論する上で，最近，沈み込み帯での小規模海底地すべりが注目されており，招待講演者の一人である山田のモデリング結果を例にして活発な議論がなされた．参加を通じて，日本から発信できる海底地すべりの情報は多い，と感じた．

28日には会場近くのセントヘレンズ山を巡検し，噴火に伴う山体崩壊地形と崩壊堆積物を観察した．セントヘレンズ山は，1980年に大規模な山体崩壊を引き起こしたことで世界的に有名である．まず同年3月中旬頃，地震が観測されはじめ，3月27日に最初の噴火が山頂部で発生した．その後，5月18日午前8時32分にM5.1の地震が発生し，山体北側が3回に分けて大規模に崩壊した．山体を構成していた岩石は岩なだれ（debris avalanche）となって流下し，爆風によって周囲の森林がなぎ倒された（須藤，2007）．

片や陸上，片や海底．しかし両者は地すべりであり，空気と海水で媒質は異なるが，共通するところも多い．我々は陸海を越えてお互いに学ぶ必要があり，それこそが未知の，そして謎の多い海底地すべりへの最善のアプローチであると信じている．





上）Coldwater Lake Recreation Areaの流れ山が見学できるルート．左）セントヘレンズ山と流れ山（手前の丘）．右）セントヘレンズ山周辺の案内標識．南にセントヘレンズ，中央やや左上にJohnston Ridge観測所，左上にColdwater Lake Recreation Areaがある．

参考文献

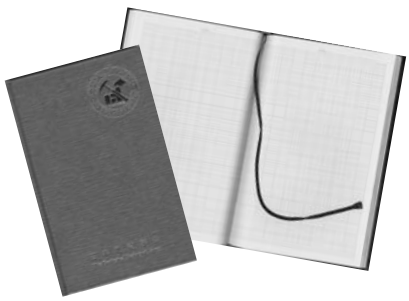
須藤　茂，2007，セントヘレンズとフッドーポートランド近辺の火山．地質ニュース，636，10-34.

表紙写真説明

上：セントヘレンズ山（Johnston Ridge観測所から）．左下：爆風によってなぎ倒された森林．右下：左下写真の拡大：爆風でなぎ倒された森林

学会オリジナルフィールドノート 好評発売中！！

サイズ：12×19cm．ハードカバー，ビニールレザー加工，金箔押し．
カラー：チョコレートブラウン．
用紙は野外調査に最適な，雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています．是非ご活用下さい．
ご購入を希望の方は，学会事務局まで．　会員頒価　500円／冊．



学　会　記　事

2007年度　第７回理事会議事録

2008年１月18日
日本地質学会　会長　木村　学

期　日：2007年12月15日（土）
10：00～12：00
場　所：北とぴあ　901会議室
出席者：伊藤副会長・佃副会長，渡部常務理事・天野副常務理事・Wallis・上砂・狩野・公文・斎藤・中山・久田・藤本・宮下・向山　各理事，
新井田清信評議員会議長・保柳康一副議長，橋辺（事務局）
欠席理事：木村会長，倉本・矢島
＊成立員数（12/17）に対し，出席者14名，委任状３名，欠席者０名で，理事会は成立．

報　告

１．運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，倉本）
総務委員会（委員長-上砂）
・学術著作権協会より，再委託先の日本複写権センターからの2005年度受託刊行物複写使用料の分配にともなう個別使用料59,084円の配分の通知があった．
・学術著作権協会より，「限定的な電子化を許諾する権利」の委任契約更新依頼があった．
前回は2005年に委任契約をしているが，2007年６月に約款の修正が文化庁から承認されたので新約款に則り契約を更新する．
・消防庁より「平成20年度消防防災科学技術研究推進制度（競争的資金制度）」の公募案内があった．
・三菱財団より，平成20年度自然科学研究助成公募案内があった．
＜他団体の会合，後援など＞
・原子力総合シンポジウム2008（2008年５月）の共催を承諾，共催分担金5000円．運営委員として高橋正樹会員を推薦．
・第12回岩の力学国内シンポジウム（2008年９月2-4日）の協賛依頼を前回同様に承諾．
・富士山学会より「富士山に科学（学術）的説明看板を設置する運動」への参加依頼と富士山科学看板設置調整委員会の専門委員１名の推薦依頼があった．運動への参加を承認し，委員候補者に確認の上，返事を出すこととした．
・「第33回リモートセンシングシンポジウム」，「2007地球環境保護　土壌・地下水浄化技術展」の終了御礼
会員関係（担当理事-中山）
１）入会の承認（正２名，うち院１）井口亮・長友晃夫
２）退会（正１名）吉谷昭彦
３）11月末日会員数
賛助34，名誉74，正4,428（うち院272），準39，合計4,575（前年同期比　－196）
４）会員名簿2007年版刊行，11月号と同時発送．
５）会費長期滞納者（2004-2007）名簿回覧，入金がなければ３月末で除籍手続き．

自然史学会連合（斎木健一委員）
斎木委員の次年度継続について，本人引き受け用意あり．継続を依頼する．
地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合地学オリンピック小委員会（久田）
地学オリンピックの概要について説明があった．
会計関係（担当理事-向山）
・11月までの一般会計収支計算書，札幌大会会計報告があった．

２．学術研究部会（部会長-公文）
行事委員会（斎藤委員長）
秋田大会の準備の現状報告．
国際交流委員会（公文　国際特任理事）
・タイ地質学会からAnnual Meeting（2008年３月21-22日）の招待状があった．会長の都合について，伊藤副会長から確認する．
・タイのチュラロンコン大学理学部地質学教室創立50周年記念国際会議（アジア地域の地球科学資源と環境に関する国際会議）の後援依頼が日タイ小委員会の久田世話人を通じて寄せられた．承諾することとした．

３．編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）
地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-久田，宮下＝企画担当）
・12月24日現在の編集状況報告
Island arc編集委員会（担当理事-Wallis，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・地質学会News誌の10月号表紙写真にアイランドアークの印刷前の写真が掲載された件について，アイランドアーク賞選考委員会発足などについて報告された．
Island arc連絡調整委員会（委員長-会田，担当理事-Wallis）
・2008年度科研費の申請を取りやめることとなった事情，ならびに今後のオンライン閲覧などについての報告があった．

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤本）

５．その他
法務委員会（担当理事：委員長-上砂）
・12月14日に委員会を開催し，学会内で起こりうる利益相反行為について審議した．

６．選挙管理委員会（委員長-加藤潔）
・投票は12月15日で締め切り，開票は12月17日９時よりおこなう．

７．地質の日委員会（藤本委員）
・パンフレットの印刷と，地質の日を日本記念日協会に登録することを企画
パンフレット印刷代として8-9万円，記念日協会への登録料が５万円．これらについては，実行委員会に参加する機関で応分に負担の予定．

○審議事項

１．女性地球科学者の未来を考える委員会からの委員会名称の変更願いが提出され，評議員会で審議することとした．
新委員会名：男女共同参画委員会
２．就業規則委員会よりの中間答申があった．
３．来年度事業方針案，来年度事業計画案，予算計画案の提示
会長および会計担当より素案の説明があった．
４．メール審議の確認
１）07年度各賞選考検討委員の編成承認
木村　学・齊藤靖二・嶋本利彦・平　朝彦・磯崎行雄・狩野謙一・渡部芳夫・石渡　明・Simon WALLIS・小川勇二郎・巽　好幸
なお，理事会推薦委員２名は伊藤副会長，08年度会長選挙当選者を推薦することとした．
２）理事会の下の３賞（学会賞，国際賞，小澤儀明賞・柵山雅則賞）の推薦委員会の委員編成を承認．今回は時間的な余裕がないので，委員の個人的な推薦を求めることとした．
○日本地質学会賞推薦委員会委員
磯崎行雄　平　朝彦　嶋本利彦
加々美寛雄　鈴木和博　伊藤谷生
巽　好幸　丸山茂徳　板谷徹丸
斎藤常正
○日本地質学会国際賞推薦委員会
平　朝彦　永原裕子　岡田尚武
奥村晃史　木村　学　北里　洋
久城郁夫　千木良雅弘　中田節也
藤井敏嗣　松岡俊文　松本　良
磯崎行雄　嶋本利彦　加々美寛雄
鈴木和博　伊藤谷生　巽　好幸
丸山茂徳　板谷徹丸　斎藤常正
○日本地質学会小澤儀明賞・柵山雅則賞推薦委員会
天野一男　新妻信明　牧野泰彦

平　朝彦　　徳山英一　　高木秀雄
榎並正樹　　中川光弘　　横田修一郎
楡井　久　　升本真二　　平山　廉
吉川周作

2007年度　第8回理事会議事録

2008年1月18日
日本地質学会　会長　木村　学

期　日：2008年1月12日（土）
12：00〜17：00
場　所：地質学会事務局
出席者：伊藤副会長・佃副会長，渡部常務理事・天野副常務理事・上砂・狩野・倉本・斎藤・中山・久田・向山・矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：木村会長，Wallis・公文・宮下・藤本
＊成立員数（12/17）に対し，出席者12名，委任状5名，欠席者0名で，理事会は成立．

報　告

1．運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，倉本）
総務委員会（委員長-上砂）
＜他団体の会合，後援など＞
・富士山学会よりの富士山科学看板設置調整委員会の専門委員1名の推薦については，高橋正樹会員の承諾が得られ，推薦した．
・日本ジオパーク連絡協議会（会長-米田徹糸魚川市長）が設立された（12月26日）．学会宛に「ジオパーク推進に関わる要請書」が寄せられた．
・平成19年度学術振興会賞の決定通知があった．地球科学系（地学）の受賞者はなし．次回の推薦依頼は4月を予定．
・平成19年度沖縄研究奨励賞受賞者の決定通知があった．本会推薦の井龍会員は残念ながら受賞にはいたらなかった．
会員関係（担当理事-中山）
1）入会の承認（正2名）Rehman Hafiz Ur　渡辺敬三
2）退会（正1名）李　京昌
3）逝去（正2名）福田正光（2007/12/8）長田幸久（2007/12/7）
4）12月末日会員数
賛助34，名誉74，正4,425（うち院273），準39，合計4,572（前年比　−60）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合地学オリンピック小委員会（久田）現在，国際地学オリンピック日本委員会の設立が検討されている．
地質学会としてサポートする．
学術会議関係報告（木村会長＝連携会員）
会計関係（担当理事-向山）
・08年度予算案及び関連事項について
2008年度事業計画（素案）が提示された．4月評議員会を目途として内容を検討する．
2008年度事業方針との対応で調整する．
・アイランドアークの出版にかかわる予算について継続的に検討必要．
・秋田大会開催にかかわる予算について検討．参加者を600名としてシミュレーションをした．
・故秀　敬名誉会員のご遺族から，ご寄付があった．

広報委員会（担当理事-倉本）
インターネット運営小委員会（委員長-坂口有人）
・新システムによるメーリングリスト機能の修正・改善をおこなった．会員番号（ID）がメール本文中に表示される不備については，修正作業中．
・MLシステムの改善を理事会からさらに要請した．

2．学術研究部会（部会長-公文）
行事委員会（斎藤委員長）
・秋田大会については，鉱物科学会とは同時開催であるが，実質的な共催としたい．
・2月に斎藤委員長が秋田大を訪問し，巡検，参加費などについて打ち合わせをする予定．

国際交流委員会（公文　国際特任理事）
・日−タイ小委員会の発足（委員：久田健一郎・上野勝美・仲谷英夫・曽根正敏・脇田浩二）
・日−モンゴル小委員会（委員：東田和弘・坂巻幸雄・大藤　茂・高橋裕平）
・日−フィリピン小委員会（委員：松岡篤）

3．編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）
地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-久田，宮下＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通りです（1月11日現在）．
114-1月号：論説2・短報2・口絵1（約50ページ＋・校正中）
114-2月号：論説3・短報2・口絵1（入稿準備中）
・2007年度投稿論文総数81編［論説55（和文54＋欧文1），総説7（和文7），短報13（和文12　欧文1），ノート4（和文4），報告2（和文2）］口絵9（和文6欧文3））※うち61件が電子投稿
投稿数昨年比　−21　　査読中　46編
受理済み　6編（うち　教育特集4）
・2008年度投稿論文総数3編［論説3（和文3）］

Island arc編集委員会（担当理事-Wallis，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
1．2007年出版結果
2007年16巻の年間契約ページ数576（〜最大620）p．
1号　Pictorial 1編，特集6編，一般8編．210p．（科研費18年度計画　540pに対し560p）
2号　一般7編．108p．
3号　フィリピン海特集7編，一般5編．186p．
4号　Pictorial 1編，一般5編．102p．
年間606p．契約に基づき2008年から30p前借り．
2．2008年編集状況
2008年17巻の年間契約ページ数は620p（07前借り30pの件は要確認）
2号　Pictorial 1編，一般10編，181p．WEB公開済み（科研費19年度計　画700pに対し577p見込み）
2号　手持ちPictorial 1編一般原稿3編．2月下旬入稿を予定．
3．特集
フィリピン海特集：Guest Editors小原・徳山・Stern
7編を16-3号掲載．もう1編を一般論文として掲載予定．
板谷特集：GE板谷・Sajeev・Wallis
6編受付済み，うち受理1編をWEBで先行公開済み．掲載は17-3号か？
久田特集：GE久田・Yumul（IGCP 516）
全24編受付済み，うち5編受理．17-4号・18-1号分割掲載を予定．
HKT（ヒマラヤ）特集：GE Wallis・Aitchison・Ali
全7-8編に変更，7編受付済み．掲載は18-3号以降になる．
08年集会の特集の打診も来ている．
寺林特集：GE寺林　6編予定
4．中期的投稿状況
07年12ヶ月で新規投稿97編（特集10＋6＋24＋7編，一般46編，口絵4編）．一般に限っても十分な投稿が集まっている．
MCへの登録：12月末時点で約670名（著者360余名＋査読者220名＋編集委員75名（新旧含む）＋特集GE 4名）
5．・AOGS（June 16-20, 2008 in Busan, Korea）のセッション
［SE58］Permo-Triassic Collision, HP-UHP Metamorphism and Tectonic Exhumation　along the East Asian Continental MarginのIsland Arc特集企画をConvener Prof Ernstに提案（石渡前編集委員長）．前向きに検討するという返事だった．

Island arc連絡調整委員会（委員長-会田，担当理事-Wallis）
・1/10付けで，学振にアイランドアーク刊行状況報告を出した．
・2009年以後のOnline閲覧費用について

Wiley-Blackwellとの合意はまだ得られていない．引き続き交渉する予定．

企画出版委員会（担当理事-藤本）
・地質環境の長期安定性に関する研究委員会のリーフレット企画について，高橋さんに説明に来ていただくのは，２月以降にさせていただきたい．
・地学読本：近々，最終原稿を出版社に渡す．前書きを会長に依頼する．表紙に地質学会のロゴとIYPEのロゴを入れる．

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤本）
地学教育委員会（委員長-阿部国広）
・屋久島の地学リーフレット作成に関連し，屋久島地学同好会との巡検について年末に関係者の巡検を行った．
・地質の日に合わせ，箱根探検マップを使って実際に探検するという企画を検討中．関係者との調整など具体化は今後．予算化10万円．
関東支部の箱根巡検が予定されている（５月17，18日）ので，連携調整を進める．
・地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」
地層名委員会（委員長-天野）
・「国際層序ガイド」の再販について検討中．

５．その他
支部長連絡会議（担当理事-伊藤）
・ジオパークの件も含め，支部長あてに検討事項を文書で送る予定．
・東北支部の支部規約の整備をめざす．

ジオパーク推進委員会（担当理事，佃委員長）
・理事会の元に，日本地質学会ジオパーク支援委員会の発足を検討することとした．次回に具体的な提案をする．
・支部の援助を受けられる体制をめざす．

学会就業規則整備委員会（委員長-立石雅昭）
・学会事務局員の給与額の見直しのための，国立大学等における給与差額支給の詳細資料が理事会に送付された．差額支給の決定については議事へ．

６．選挙管理委員会（委員長-加藤潔）
・開票は予定通り12月17日に行い，結果を会長に報告した．
・湯浅真人会員の立会人申込みがあり．開票に立ち会った．
・引き続いて理事の選挙を行うため，全代議員にその旨通知した．

【以下，理事会および評議員会の下の委員会】
各賞選考委員会（委員長-安藤寿男）
・各賞の推薦が締め切られ，本格的な審査に入る．
・選考検討委員会委員長は．狩野理事に決定．
・学会賞：１名，柵山賞：４件３名，小沢賞・国際賞：０名が推薦されており選考に入る．

法務委員会（担当理事：委員長-上砂）
・12月14日の委員会
除名細則に関する手続きの詳細について検討した．
・12月26日の委員会
除名申立の受理に関して審査した．

７．地質の日推進委員会（担当理事-藤本）
・来年度事業計画について，地質の日関連で，昨年作成した箱根たんけんマップなどを利用した巡検など，地質学会の出版物とリンクさせた取組みができないかと検討中．
・「地質の日」の記念日登録は地質学会に委ねられた．登録料は52,500円．
・各団体等で実施予定の事業についてとりまとめ，連携等に資することとした．

○審議事項
１．地質学雑誌の表紙リニューアルに伴うデザイン募集について（狩野理事）
・投稿締め切り：３月31日
・一般公募し，必要な場合はそれを元にデザイナーにデザインを依頼する．
・応募はPDFファイルで提出．
・採用作品には賞金50,000円を与える．
・募集要項原案を倉本が作成し，事務局と編集委員長で検討する．
２．男女共同参画学協会連絡委員会（＝地球惑星連合）より，学術振興会事業における女性審査委員候補者の推薦依頼に関して（渡部常務）
女性地球科学者の未来を考える委員会（堀委員長）に人選を依頼し，田崎和江，堀　利栄２会員について本人の承諾を得て，男女共同参画学協会連絡委員会に推薦することを承認した．

３．2008年度事業方針案・事業計画案・予算案について（向山理事ほか）
次期会長陣との協議に基づく事業方針案，事業計画案は２月理事会までに策定し，概要が了承された事業予算案を最終的に編成することとした．３月中に確定し，４月評議員会に付す予定．

４．除名処分の手続き上の問題について（上砂理事）
手続きの確認を行い，会員に向けて開示する事とした．

５．選挙執行・管理体制の制度的整備について（渡部常務）
選挙管理委員会への感謝と意見聴取を行う．改善点について選管と意見交換を行い，今後の改革について検討することとした．

６．学会事務局職員の給与額改定について（渡部・向山理事）
公務員の基準に準拠して事務局員の給与差額の支払いを行うこととし，常務理事より事務局長に通知した．

７．就職支援活動（四役会議より）
就職支援活動に関する検討を行うWGを立ち上げる検討を開始する．
WGメンバー：向山，矢島，伊藤，理事会外から若手１名

８．年末に向けた法人登録の準備にかかる実務体制について（四役会議）
法人登録に必要な作業について，情報収集する相談会を行う．メンバーは，運営財政部会長，高木弁護士，山本幹事（司法書士），四役とする．
現法人化実行委員会の発展的解消．

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 1 8 4 7 6 0 0 0	顧客コード 0 0 0 0 0	

―預金口座振替規定―　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

デジタルクリノメーター GeoClino

走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

税込価格 ¥49,800

デジタルクリノメーター「GeoClino」は、従来の測定方法とは異なり層理面に当てるだけで走向・傾斜を同時に測定することができます。さらに、測定の難しい線構造も簡単に測定することができるので、測定時間の大幅な短縮が見込めます。

GeoClinoは測定データを本体メモリ内に999個まで保存し、付属のケーブルを接続してパソコン側へ転送することができます。

また、GeoClinoは耐水機能を完備しており野外調査でも安心してお使いいただけます。

【走向傾斜の測定風景】

【線構造の測定風景】

外形寸法：約142×69×26㎜　電源：単3アルカリ電池2本で約20時間連続使用可能

・便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属（※ Windows用 ）
GeoAssistでGeoClinoから測定データを収録し、地図上に走向・傾斜を表示することができます。また、走向・傾斜データから簡易地質図を作成することもできます。

・さらに便利な2つのバージョン!!

・GeoClino-B（Bluetooth搭載版）　税込価格 ¥72,000
Bluetoothを内蔵しているので、パソコン側にBluetoothがあれば、シリアルケーブルで繋ぐことなくデータを転送することができます。

・GeoClino-G（GPS搭載版）　税込価格 ¥82,000
GPS機能を搭載しており、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

GSI ジーエスアイ株式会社
〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
http://www.gsinet.co.jp

研究室のミニ工場

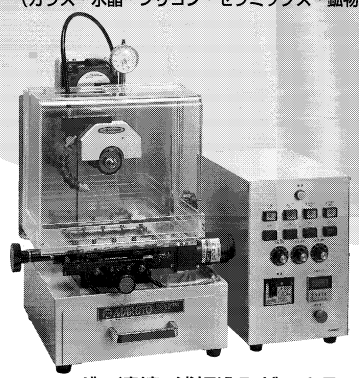
マルトーのラボ・ファクトリープラン3点セット

小型　精密　操作簡単　低価格

（ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工）

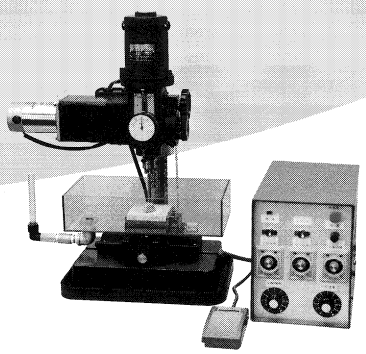
小さな機械だが役に立つ

磨く　切る　抜く



カッティング　連続・浅切込みができる
ステップカッター〔MC-170〕
●試料へのダメージが少ない
●最小切込み量 10μm／pass
●最大加工能力 H25×L40mm
●設置面積 W550×L450mm
●本体価格 178万円～

ポリッシング　精密鏡面研磨機
ドクターラップ〔ML-180〕
●組織検査用試料のラッピング・ポリシング
●アクセサリー豊富
●研磨試料サイズ φ1～φ100mm
●設置面積 W400×L400mm
●本体価格 45万円～



コアリング　微小径コア抜き取り機
ミニピッカー〔MG-5N〕
●主軸回転数 4000～12000r／min
●加工能力 φ1～φ6mm×30mm
●設置面積 W600×L400mm
●本体価格 125万円～

材料を切る・削る・磨くそして測る技術で奉仕する

http://www.maruto.com

株式会社マルトー
本社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10 ☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル ☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

5月10日は
地質の日

地質の日の由来

5月10日は、明治9年(1876)、ライマンらによって日本で初めて広域的な地質図、200万分の1「日本蝦夷地質要略之図」が作成された日です。
また、明治11年(1878)のこの日は、地質の調査を扱う組織（内務省地理局地質課）が定められた日でもあります。

地質の日とは

私たちの住んでいる大地は、地層、岩石、土壌などでできています。これらの性質のことを「地質」と呼びます。地質とは、まさに大地の性質＝Quality of Earth のことです。
地質はエネルギーやさまざまな素材の基となる鉱産資源、温泉や美しい景観など私たちに豊かな恵みを与えてくれます。また、構造物の建設、地下空間利用や、廃棄物処理などの環境面でも地質は重要な役割を果たします。しかし一方で、地質は、地震、火山噴火、斜面崩壊などによって大きな災害をもたらすこともあります。

このように、「地質」は、人間社会と深く関わっていますが、「地質」の重要性や、地質に携わる人々の活動は、一般には、ほとんど知られていません。
一般の人々が、地質をより身近に感じ、理解できることによって、安全・安心で豊かな暮らしが確保できるとともに、地球や環境を大切にすることにもつながります。
地質の日は、この地質への理解を推進する日として、制定されました。さまざまなイベントや日常の活動を通じて、地質をより身近に感じて下さい。

地質の日は、2007年3月13日に、地質関係の組織・学会が発起人[*1] となって定められました。今後「地質の日」事業推進委員会[*2] が「地質の日」を広めていきます。

*1　発起人：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、(独)産総研地質調査総合センター、北海道立地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(NPO) 地質情報整備・活用機構(順不同)
*2　事業推進委員会：日本地質学会、日本応用地質学会、日本情報地質学会、日本古生物学会、資源地質学会、日本堆積学会、日本第四紀学会、(独)産総研地質調査総合センター、日本科学未来館、北海道立地質研究所、神奈川県立生命の星・地球博物館、(社)全国地質調査業協会連合会、(社)東京地学協会、(NPO) 地質情報整備・活用機構(順不同)(2007年8月末現在)

地質の日記念行事

2008年5月に、全国の地質に関係する人たちと第1回の記念行事（一般向け）を行います。みなさまのご参加をお待ちしています。

planetearth Earth Sciences for Society 2007-2009

地質の日事業推進委員会事務局：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
TEL: 029-861-9122、FAX: 029-861-3672　WEB: http://www.gsj.jp/geologyday/
ここに用いた地質図は100万分の1日本地質図第3版と（財）日本水路協会海洋情報研究センターが作成した標高データJTOPO30を使用して作成しました。

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp